日本赤十字社

成田赤十字病院

初期臨床研修医・専攻医募集

成田赤十字病院臨床研修プログラム

2026

Japanese Red Cross

Narita Hospital

自分自身の未来像を



成田赤十字病院臨床研修プログラム

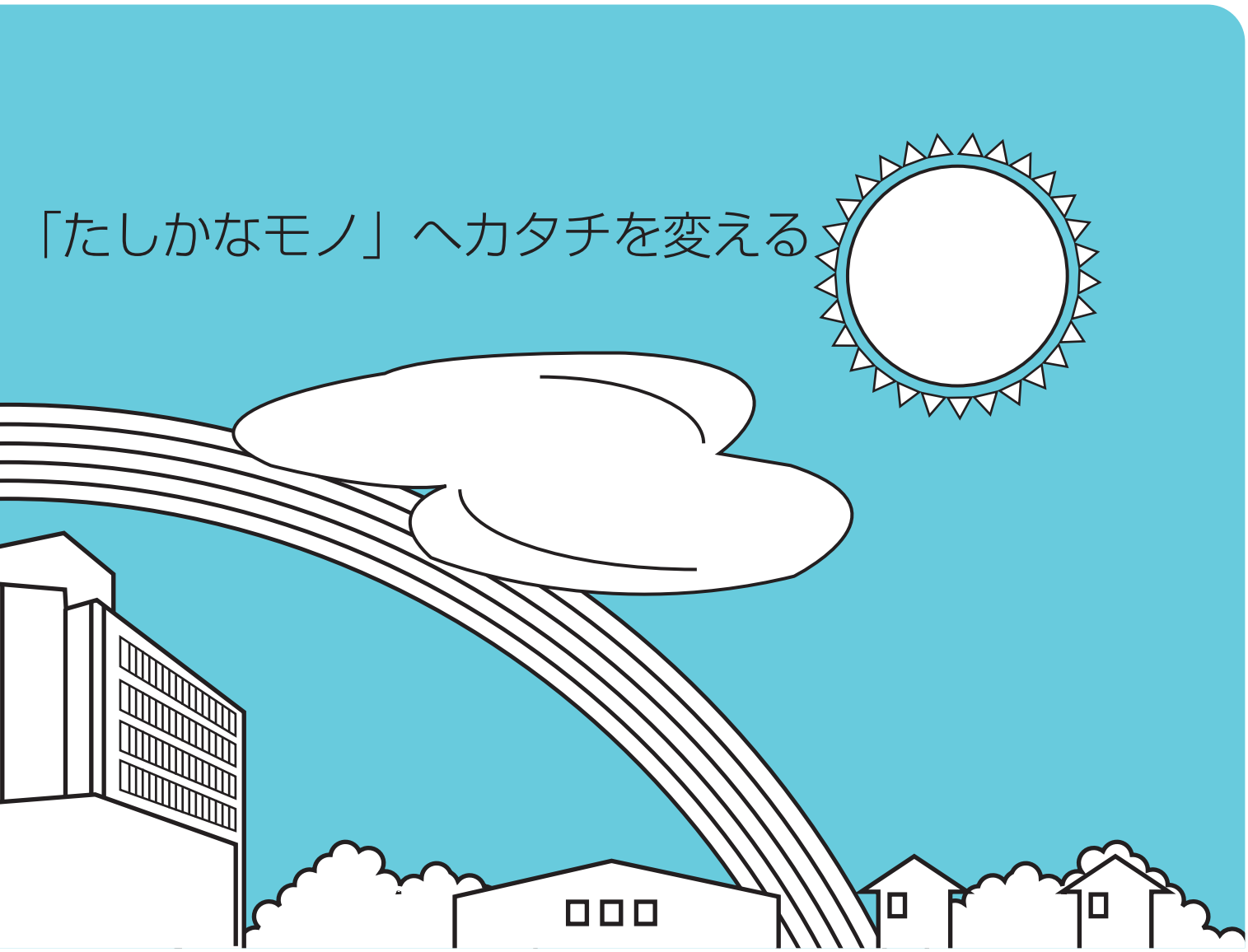










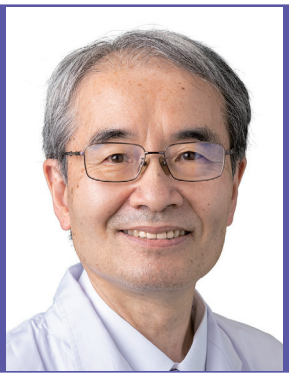


index

ごあいさつ 2
成田赤十字病院の概要 3
初期臨床研修プログラム 7
初期研修医からのメッセージ 13
専門研修プログラム 14
専門研修プログラムの連携施設一覧 15
●内科 16
●血液腫瘍科 18
●総合内科 20
●リウマチ・アレルギー内科 22
●腎臓内科 24
●糖尿病・内分泌代謝内科 26
●消化器内科 28
●循環器内科 30
●呼吸器内科 32
●精神神経科 34
●小児科 36
●新生児科 38
●外科 40
基幹施設から受入れている診療科 42
●脳神経外科 44
●整形外科 46
●心臓血管外科 48
●形成外科 50
●呼吸器外科 52
●眼科 54
●泌尿器科 56
●耳鼻咽喉科 58
●産婦人科 60
●麻酔科 62
●救急集中治療科 64
●放射線科 66
●感染症科 68
●病理部 70
成田赤十字病院としての特色 71
勉強会・研修会の様子 73
専攻医からのメッセージ 74

成田赤十字病院

日本赤十字社



より安全で、より高度な こころあたたかい医療の提供

内科プログラム統括責任者
院長　青墳 信之

当院の発足は、昭和23年日本医療団より日本赤十字社に移管されたことに始まります。以来75年にわたり、北総地域の中核病院として、救急医療・急性期医療体制の充実に努めてまいりました。

地域の診療所・病院との連携にも努めており、平成18年度には地域医療支援病院に指定されました。現在は、救命救急センター、千葉県がん診療連携拠点病院（令和5年4月再指定）、災害拠点病院など、数多くの指定を受けております。

高機能病院としても努力を続け7つの機能別センターを設置しております。（地域周産期母子医療センター、脳卒中センター、脊髄・脊椎センター、アレルギー膠原病センター、千葉大学肺がん治療センター、造血細胞移植センター、臨床研究センター）

また、千葉県唯一の赤十字病院として、日本国内では、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震、平成19年新潟県中越沖地震、東日本大震災などの大規模災害に対し、災害救護活動を行いました。今後想定される大規模地震についても準備が求められます。一方海外においては、パキスタン北部地震、フィリピン保健医療支援、パキスタン紛争犠牲者救援、ハイチ大地震救援などに従事するため、医師・看護師を現地に派遣しました。

さらに、成田空港に隣接した病院として、日本国内に4か所しかない特定感染症病床を有し、海外からの感染症の脅威に対して、即対応できる体制を構築しております。

当院は、患者さん・ご家族の方々を支え、患者さんと共に歩む医療を提供できるよう、スタッフのスキルアップに重点を置き、人財を育成しております。現在、KGI・KPI（業績評価手法の一つ）を導入し、職員一人ひとりが主体的に考えながら業務を遂行するシステムを構築しております。

今後も職員一同精進し、地域のみなさまに、より安全で、より高度な、当院の基本理念である「こころあたたかい医療」の提供に努力してまいります。



多くの仲間とともに 切磋琢磨できる環境で!

初期臨床研修プログラム責任者　野口 靖

あなたは医師としての第一歩をどこで迎えますか?医師としての長い道のりの礎となる大切な2年間です。当院はしっかりとしたプログラムと指導体制のもと研修できる病院です。またその立地から、当院ならではの多彩な症例を経験できます。

医師には患者の立場に立ち、また医療チームの核として引っ張っていくことが求められます。

当院は社会人として、医師としてリーダーとなる人材を育ててきました。

多くの仲間とともに切磋琢磨できる環境で一緒に成長していきましょう。意欲のある先生方をお持ちしております。



Japanese Red Cross
Narita
Hospital

成田赤十字病院の概要

施設概況（令和８年４月１日現在）

❶ 名称	成田赤十字病院
❷ 所在地	千葉県成田市飯田町90-1
❸ 開設年月日	昭和23年2月1日
❹ 開設者	日本赤十字社 社長　清家　篤
❺ 管理者	院長　青墳　信之
❻ 病床数	655床（一般598・精神50・感染症7）
❼ 診療科目	32診療科 内科/消化器内科/循環器内科/血液腫瘍内科/呼吸器内科 糖尿病・内分泌代謝内科/腎臓内科/リウマチ内科/アレルギー内科 精神科/脳神経内科/小児科/外科/消化器外科/乳腺外科/整形外科 形成外科/脳神経外科/呼吸器外科/心臓血管外科/小児外科/皮膚科 泌尿器科/産婦人科/眼科/耳鼻咽喉科/リハビリテーション科/放射線科 歯科口腔外科/麻酔科/緩和ケア内科/病理診断科
❽ 特殊設備	救命救急センター、集中治療室（ICU）、新生児センター（NICU） 人工透析センター、リハビリテーションセンター、無菌治療室 感染症（特定・一種・二種）、緩和ケア病床 健康管理センター、人間ドック（2日・日帰り）
❾ 職員数	1,471名（令和7年7月1日現在）
❿ 敷地面積	24,353.00平方メートル
⓫ 延床面積	47,462.76平方メートル



各制度の指定

●生活保護法指定病院
●労災保険指定病院
●原子爆弾被爆者一般疾病医療機関
●指定養育医療機関
●救急告示病院
●救命救急センター（第三次救急指定病院）
●臨床研修指定病院
●第1種感染症指定医療機関
●第2種感染症指定医療機関
●精神応急入院指定病院
●特定非営利活動法人日本臨床腫瘍学会認定研修施設
●印旛山武地域難病相談支援センター
●保険医療機関
●児童福祉施設（助産施設）
●千葉県特定不妊治療実施医療機関
●地域医療支援病院
●地域がん診療連携拠点病院
●エイズ治療拠点病院
●地域周産期母子医療センター
●災害拠点病院（地域災害医療センター）
●特定感染症指定医療機関
●医療観察法に基づく指定通院医療機関
●臓器提供施設
●骨髄採取・骨髄移植施設（血縁者、非血縁者間）
●日本人間ドック学会1日・2日ドック指定
●人間ドック・健診施設機能評価認定施設
●病院機能評価施設　3rdG Ver2.0
●千葉県肝炎治療特別促進事業指定医療機関
●指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療・精神通院医療）
●JMIP（外国人患者受入れ医療機関認証）
●千葉県アレルギー疾患地域基幹病院









（財）日本医療機能評価機構とは、医療機関の第三者評価を行い、医療機関が質の高い医療サービスを提供していくための支援を行うことを目的とした機関です。
当院は、平成31年3月1日付で認定（評価体系3rdG:Ver2.0）を更新しました。



JMIP（外国人患者受入れ医療機関認証）とは、『外国人が安心・安全に国際的に高い評価を得ている日本の医療サービスを享受することができる体制を構築する』ことを目的とし、国の事業の一環として策定された認証制度です。
当院、は令和3年1月25日付でJMIP認証（Ver.2.1）を更新しました。

学会認定

- 日本消化器病学会　専門医制度認定施設
- 日本内科学会　認定医制度認定教育施設
- 日本小児科学会　小児科専門医制度研修施設
- 日本総合病院精神医学会　専門医研修施設
- 日本精神神経科学会　精神科専門医制度研修施設
- 日本外科学会　外科専門医制度修練施設
- 日本整形外科学会　整形外科専門医制度研修施設
- 日本産科婦人科学会　専門医制度専攻医指導施設
- 日本眼科学会　専門医制度研修施設
- 日本耳鼻咽喉科学会　耳鼻咽喉科専門医制度研修施設
- 日本泌尿器科学会　専門医制度基幹教育施設
- 日本脳神経外科学会　専門医認定制度C項施設
- 日本医学放射線学会　放射線科専門医制度修練機関
- 麻酔科専門医制度　麻酔科認定医制度認定病院
- 日本救急医学会　救急科専門医制度指定施設
- 日本形成外科学会　専門医制度認定施設
- 日本循環器学会　認定循環器専門医制度研修施設
- 日本血液学会　血液専門医制度研修施設
- 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医制度教育施設
- 日本糖尿病学会　専門医制度認定教育施設
- 日本腎臓学会　専門医制度研修施設
- 日本消化器外科学会　消化器外科専門医制度修練施設
- 日本リウマチ学会　リウマチ専門医制度教育施設
- 日本消化器内視鏡学会　専門医制度指導施設
- 日本大腸肛門病学会　専門医制度認定施設
- 日本超音波医学会　超音波専門医制度研修施設
- 日本核医学会　核医学専門医制度教育病院
- 日本IVR学会専門医研修認定施設
- 日本集中治療医学会　集中治療専門医制度研修施設
- 日本臨床細胞学会　細胞診専門医制度教育研修施設
- 三学会構成心臓血管外科専門医認定機構関連施設
- 日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設
- 日本周産期・新生児医学会認定研修施設
- 日本神経学会専門医制度准教育施設
- 日本静脈経腸栄養学会　NST稼働施設
- 日本静脈経腸栄養学会　栄養サポートチーム専門療法士認定規定認定教育施設
- 実地修練認定教育施設
- 日本栄養療法推進協議会　NST稼働施設
- 日本緩和医療学会認定研修施設
- 日本透析医学会専門医制度教育関連施設
- 日本アレルギー学会教育施設
- 骨髄移植推進財団　非血縁者間骨髄採取・移植認定施設
- 日本小児血液・がん学会　専門医研修施設
- 日本医療薬学会認定薬剤師研修施設
- 日本医療薬学会認定薬物療法専門薬剤師研修施設
- 日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
- 日本急性血液浄化学会認定指定施設
- 胸部ステントグラフト実施施設
- 腹部ステントグラフト実施施設
- 日本口腔外科学会　専門医制度准研修施設
- 日本頭頸部外科学会　準認定施設
- 日本胆道学会認定指導医制度　指導施設認定証
- 日本手外科学会　研修施設認定証
- 日本内分泌外科学会・日本甲状腺外科学会専門医制度認定施設
- 日本感染症学会連携研修施設
- 日本病理学会研修認定施設B
- 日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科専門基幹研修施設
- 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設
- 日本小児循環器学会小児循環器専門医修練施設
- 日本血栓止血学会認定血友病診療地域中核病院
- 日本心臓血管麻酔学会認定心臓血管麻酔専門医認定施設
- 日本肝胆膵外科学会認定肝胆膵外科高度技能専門医修練施設B
- 日本心血管インターベーション治療学会研修施設群連携施設
- 呼吸器外科専門医合同委員会関連施設
- 日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- 日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設）
- 日本脊椎脊髄病学会認定椎間板酵素注入療法実施可能施設
- 日本臨床栄養代謝学会認定NST（栄養サポートチーム）稼働施設
- 日本臨床細胞学会認定施設
- 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育施設
- 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
- 日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
- 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
- 日本総合病院精神医学会認定けいれん療法研修施設
- 日本麻酔科学会周術期特定行為パッケージ研修協力施設
- 日本脳卒中学会　一次脳卒中センター
- 日本脳卒中学会　一次脳卒中センターコア施設
- 日本眼科学会専門医制度研修施設
- 口腔外科専門医研修施設
- 日本肝臓学会関連施設
- JPLSG（日本小児白血病リンパ腫研究グループ）認定施設
- 日本小児神経学会小児神経専門医研修関連施設

初期臨床研修プログラム

2年間の研修を通して、適切な環境と指導体制のもとに、
プライマリーケアに対処できる基本的な態度、判断力、技術、知識
を修得し、科学的な根拠に基づいた、全人的な医療を実践できる
臨床医を育成することを目的とする。



Japanese Red Cross
Narita
Hospital

当院の臨床研修システムの特長

臨床研修開始前に看護部、医療安全推進室、感染対策室、検査部、病理部、薬剤部、臨床工学部、医事業務課、医師事務支援業務、医療社会事業課、国際診療支援室での短期研修を行うため院内のほぼ全部署の仕事を把握でき、チーム医療の重要性を理解できる。

プログラムの一般目標・行動目標は、患者・家族・医療スタッフとの適切なコミュニケーションがとれること、プライマリーケアに対応できること、全人的医療を目指すことを最重点目標としている。

救急診療については救急・集中治療科をローテイトするほか、各科当直医の指導のもとに全科当直を定期的に行うため、各科の初期救急診療を充分研修できる。

厚生労働省が定めた必修研修科のほかに2年目は希望科（選択科）で研修し、研修不十分な部分を重点的に研修できる。

また、赤十字の本旨である災害医療に関する見聞を深めることができ、2年次では救護班に編成され訓練に参加する。実際の災害救護は、機会があり、条件がととのえば、派遣されることもある。

研修修了後もひきつづき当院で専攻科の研修を希望する場合、病院長・担当科部長・研修管理委員会の認可があれば、3年目以降も継続して当院で専攻科の後期研修を行い、各科認定医/専門医等を目指すことも可能である。

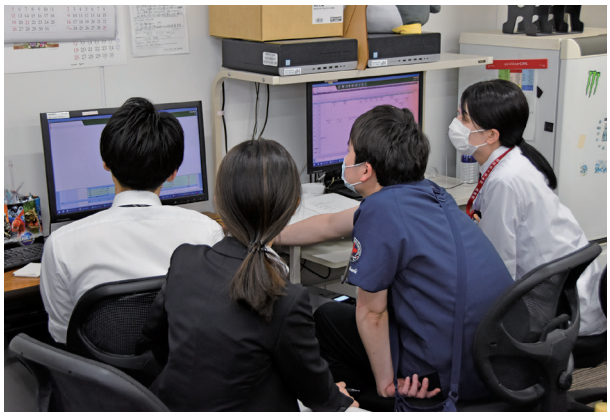
臨床研修の一般目標

1. 医師としてプライマリーケアに必要な基本的な診療行為（病歴聴取・理学所見・検査・治療手技等）を適切に実施できる
2. 常に患者の立場に立ち、全人的医療の実践に努めることができる
3. 患者・家族・関係する医療スタッフと良好なコミュニケーションがとれる
4. 医師として診療上必要な法律・制度・規定等を理解しこれを遵守できる
5. 診療録その他必要な医療記録を適切に記載できる
6. 自己評価、指導医評価、第3者評価の結果を自らの能力向上に役立てることができる
7. 常に自己学習の習慣をもつことができる
8. 当院の定めた目標に加え、厚生労働省の定めた到達目標を達成できる

臨床研修の行動目標

1. 医師として社会人として適切な医師･患者･家族関係を築くことができる
2. 医療チームの一員としてスタッフと良好なチームワークをつくることができる
3. 医療事故、医療過誤を予防するための知識や態度を身に付けている
4. 診療録等を適切に解りやすく記載することができる
5. 適切な就業態度、研修態度、研修技術、研修意欲を身に付けている
6. 院内感染防止の基本的知識や習慣を身に付けている
7. 医療制度について診療に必要なことを理解し、制度に則った診療を実施できる
8. 病歴の聴取が的確にできる
9. プライマリーケアに必要な全身所見が的確にとれる
10. 基本的処置ができる
11. 基本的な指示･オーダができる
12. 基本的臨床検査項目について自分で行うことができ、結果を解釈できる
13. 頻度の多い検査結果について適切に解釈できる
14. 頻度の多い画像診断検査について基礎的な読影ができる
15. 基本的な治療法の適応を決定し実施できる
16. 基本的な薬剤の一般的適応と使用法、副作用、禁忌を理解している
17. 救急患者の初期対応を的確に行うことができる
18. 地域医療･在宅医療の重要性を理解し実践することができる
19. 末期医療、緩和医療を理解し実践することができる





成田赤十字病院
初期臨床研修プログラム

プログラム責任者	副院長　森尾 比呂志
副プログラム責任者	第一リウマチ・アレルギー内科部長　平栗 雅樹
地域医療研修協力施設	国保多古中央病院、黒田内科診療所、 つかだファミリークリニック、大栄診療所、なのはなクリニック

ローテイト方式

1年次	内科4ヶ月(1)、外科2ヶ月、救急集中治療科3ヶ月、 選択科3ヶ月(2)(順不同)
2年次	必修科(小児科1ヶ月、産婦人科1ヶ月、精神神経科1ヶ月、 地域医療1ヶ月(3)、麻酔科2か月)、選択科4ヶ月(4)(順不同)

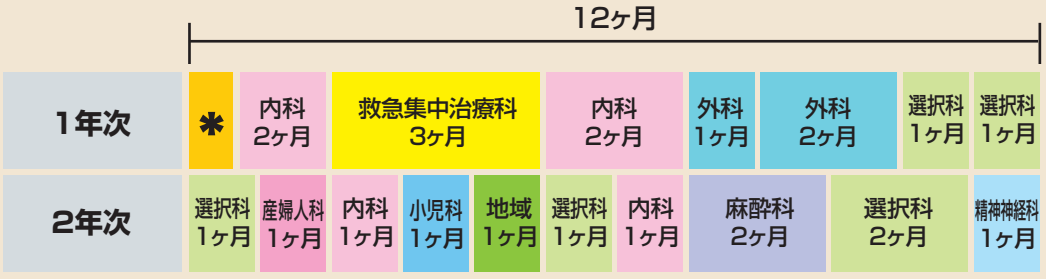
(1)消化器内科、循環器内科、糖尿病内分泌代謝内科・腎臓内科、血液腫瘍科・腫瘍内科、脳神経内科、総合内科・リウマチ、アレルギー内科、呼吸器内科の中から2科選択し、各2ヶ月研修する。

(2)1年次の選択科3か月で、必修科(麻酔科・地域を除く)を研修することも可能。

(3)国保多古中央病院1ヶ月または、黒田内科診療所、大栄診療所及びつかだファミリークリニック、なのはなクリニックを各2週間合計1ヶ月研修する。

(4)内科(脳神経内科含む)・精神神経科・小児科・外科・整形外科・形成外科・脳神経外科・心臓血管外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・放射線科・麻酔科・救急集中治療科・新生児科・呼吸器外科・感染症科の中から、選択し研修する。

■ローテイト一例



✱はオリエンテーションと多職種研修

※2年間で6ヵ月内科を回る必要があります

成田赤十字病院
初期臨床研修プログラム小児科コース

プログラム責任者	第一小児科部長　野口　靖
地域医療研修協力施設	国保多古中央病院、黒田内科診療所、 つかだファミリークリニック、大栄診療所、なのはなクリニック

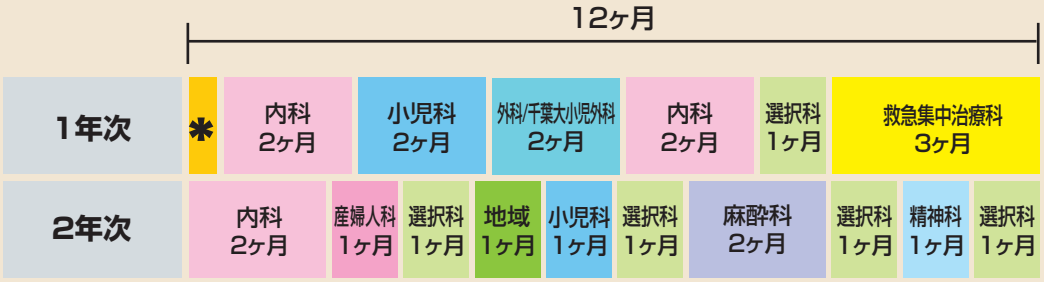
ローテイト方式

1年次	内科4ヶ月(1)、外科2ヶ月(2)、 救急集中治療科3ヶ月、選択科3ヶ月(3)(順不同)
2年次	必修科(内科2ヶ月(1)、産婦人科1ヶ月、精神神経科1ヶ月、 地域医療1ヶ月(4)、麻酔科2ヶ月) 選択科5ヶ月(順不同)

(1)消化器内科、循環器内科、糖尿病内分泌代謝内科・腎臓内科、血液腫瘍科・腫瘍内科、脳神経内科、総合内科・リウマチ、アレルギー内科、呼吸器内科の中から3科選択し、各2ヶ月研修する。
(2)千葉大学医学部付属病院の小児外科を研修することも可能。
(3)1年次の選択科3ヶ月で、必修科目(麻酔科・地域を除く)を研修することも可能。
(4)国保多古中央病院1ヶ月または、黒田内科診療所、大栄診療所及びつかだファミリークリニック、なのはなクリニックを各2週間合計1ヶ月研修する。

※2年間で3ヵ月小児科を研修することが必須

■ローテイト一例



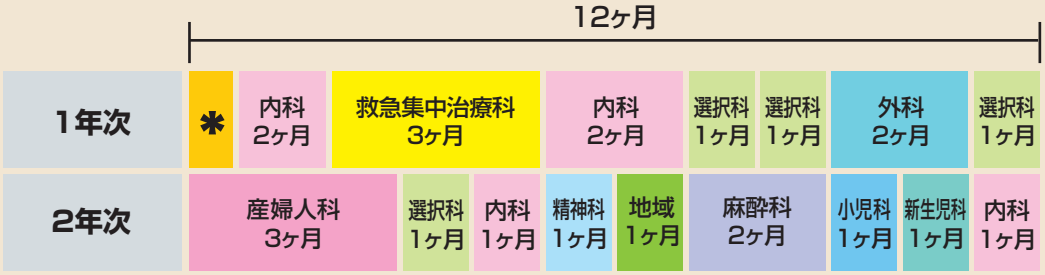
✱はオリエンテーションとコメディカル研修

成田赤十字病院
初期臨床研修プログラム産婦人科コース

プログラム責任者	第一産婦人科部長　小幡 新太郎
地域医療研修協力施設	国保多古中央病院、黒田内科診療所、 つかだファミリークリニック、大栄診療所、なのはなクリニック

ローテイト方式	**1年次**：内科4ヶ月(1)、外科2ヶ月、救急集中治療科3ヶ月、選択科3ヶ月(2)(順不同) **2年次**：必修科(小児科1カ月、産婦人科3ヵ月、精神神経科1カ月、地域医療1ヶ月(3)、麻酔科2か月、新生児科1カ月) 選択科2カ月(4)(順不同) (1)消化器内科、循環器内科、糖尿病内分泌代謝内科・腎臓内科、血液腫瘍科・腫瘍内科、脳神経内科、総合内科・リウマチ、アレルギー内科、呼吸器内科の中から2科選択し、各2ヶ月研修する。 (2)1年次の選択科3か月で、必修科(麻酔科・地域を除く)を研修することも可能。 (3)国保多古中央病院1ヶ月または、黒田内科診療所、大栄診療所及びつかだファミリークリニック、なのはなクリニックを各2週間合計1ヶ月研修する。 (4)内科(脳神経内科含む)・精神神経科・小児科・外科・整形外科・形成外科・脳神経外科・心臓血管外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・放射線科・麻酔科・救急集中治療科・新生児科・呼吸器外科・感染症科の中から、選択し研修する。

■ローテイト一例



✱はオリエンテーションとコメディカル研修

※2年間で6ヵ月内科を回る必要があります

初期研修医からのメッセージ



2年次初期臨床研修医

町田大空

群馬大学

はじめまして。
初期研修医2年目の町田大空と申します。

私が成田赤十字病院を志望した理由は、3次救急病院としての環境と、救急外来で初期研修医がファーストタッチを行える点、そして診療科の豊富さにより多様な症例を経験できる点に魅力を感じたからです。

研修を開始した当初は、カルテの使い方も分からず、採血すらまともにできない状態でした。しかし、研修医2年目の先輩や看護師の方々が丁寧に指導してくださり、徐々に業務を覚えていくことができました。救急外来では、上級医のアドバイスを受けながら検査や治療を進めることで、日々成長を実感しています。診療科での研修においても、自分のやる気次第で検査や治療を任せてもらえる機会があり、非常に勉強になります。

また、感染症科があることも当院の大きな魅力です。他の病院では珍しい診療科であり、同期からは「抗菌薬の考え方や身体診察の重要性を学ぶ上で非常に有意義だった」と聞いています。私自身も今後の研修で経験するのが楽しみです。

業務以外でいえば、成田赤十字病院には様々な部活があります。私は野球部に所属し、社会人になってからも草野球を楽しんでいます。昨年は1勝するのがやっとでしたが、今年はさらに上を目指して頑張ります。野球部には医師だけでなく、人事課や栄養課など他職種の方も参加しており、病院内での交流の幅が広がるのも魅力です。入部して本当に良かったと感じています。ぜひ、一緒に野球をしましょう!

最後に、日々さまざまな患者さんと向き合い、多様な症例を経験する中で、悩むことも少なくありません。それでも、厳しくも温かく指導してくださる指導医・上級医の先生方、そして共に頑張る研修医の仲間がいることで、努力を続けることができています。

ぜひ一度、当院に見学にいらしてください。あなたの目で、成田赤十字病院の魅力を感じていただければと思います。心よりお待ちしています。

専門研修プログラム



Japanese Red Cross Narita Hospital

専門研修プログラムの連携施設一覧

診療科	連携施設
内科	・千葉大学医学部附属病院 ・国保多古中央病院 ・千葉県立佐原病院 ・香取おみがわ医療センター ・東邦大学医療センター佐倉病院 ・東京女子医科大学八千代医療センター ・新松戸中央総合病院
小児科	・千葉大学医学部附属病院 ・国保多古中央病院 ・東京女子医科大学八千代医療センター ・独立行政法人国立病院機構下志津病院 ・帝京大学ちば総合医療センター ・松戸市立総合医療センター ・千葉市立海浜病院
精神科	・東邦大学医療センター佐倉病院 ・下総精神医療センター ・国立国際医療研究センター国府台病院 ・千葉県こども病院 ・メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ
外科	・国保直営総合病院君津中央病院 ・国立病院機構千葉医療センター

診療科	受入れている基幹施設
内科	・千葉大学医学部附属病院 ・東邦大学医療センター佐倉病院 ・東京女子医科大学八千代医療センター ・日本医科大学千葉北総病院
小児科	・千葉大学医学部附属病院 ・東京女子医科大学八千代医療センター ・独立行政法人国立病院機構下志津病院 ・松戸市立総合医療センター ・千葉市立海浜病院
精神科	・千葉大学医学部附属病院 ・東邦大学医療センター佐倉病院 ・国際医療福祉大学成田病院 ・東京大学医学部附属病院
外科	・千葉大学医学部附属病院 ・国保直営総合病院君津中央病院 ・国立病院機構千葉医療センター
皮膚科	・千葉大学医学部附属病院
整形外科	・千葉大学医学部附属病院 ・東邦大学医療センター佐倉病院
産婦人科	・千葉大学医学部附属病院
眼科	・千葉大学医学部附属病院
耳鼻咽喉科	・千葉大学医学部附属病院
泌尿器科	・千葉大学医学部附属病院 ・東邦大学医療センター佐倉病院
脳神経外科	・千葉大学医学部附属病院
放射線科	・千葉大学医学部附属病院
麻酔科	・千葉大学医学部附属病院 ・総合病院国保旭中央病院 ・松戸市立総合医療センター
病理	・千葉大学医学部附属病院 ・東邦大学医療センター大橋病院 ・東京女子医科大学八千代医療センター
救急科	・千葉大学医学部附属病院
形成外科	・千葉大学医学部附属病院

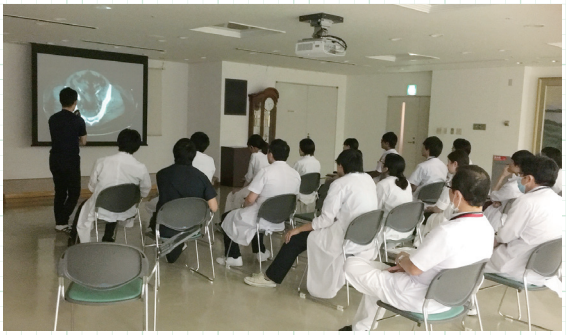
内科

内科は254床の病床を有し、急性期病院の内科として高度専門医療を行っている。
当院の特徴は
①救命救急センターを併設した、地域基幹病院である。
②成田空港を抱えた日本の玄関であり、輸入感染症が多い。
③千葉県唯一の赤十字病院としての災害救護の責務も担っている。

その結果コモンディジーズの経験はもちろん、複雑な病態の患者、輸入感染症の診断・治療、3次病院としての全身管理、地域病院との病病連携、診療所との病診連携も経験できる。有事の際の災害医療・救護班の研修にも参加ができる病院である。







01 目的

内科専攻医として内科専門医を取得する。
さらにサブスペシャリティーへの基礎固めをする。

02 到達目標

新専門医制度で求められる内科専門医の使命は以下の 4 つである。
(1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
(2) 内科系救急医療の専門医
(3) 病院での総合内科 (generality) の専門医
(4) 総合内科的視点を持ったサブスペシャリスト
成田赤十字病院内科専門研修プログラムでの研修終了時にはその成果として、上記 4 つの使命を果たすべく内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と、general なマインドを持つ人材となることである。
経験症例の学会発表、論文化の過程で研鑽することによりその素養を得ることも重要である。
さらにその後の subspecialty 領域専門医の研修や、高度・先進医療、大学院などでの研究を開始するための準備ができていることを目標とする。

03 内科研修の一例

（新内科専門医制度の基幹施設）

A 消化器内科　B 循環器内科　C 糖尿病・内分泌・代謝内科、腎臓内科
D 総合内科、リウマチ・アレルギー内科　E 血液腫瘍科　F 脳神経内科

<table>
<tr><td></td><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td></tr>
<tr><td>1年目</td><td colspan="3">A</td><td colspan="3">B</td><td colspan="3">C</td><td colspan="3">D</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="6">プライマリ当直研修</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td colspan="11">JMECC 講習を受ける</td></tr>
<tr><td>2年目</td><td colspan="3">E</td><td colspan="3">F</td><td colspan="6">地域研修</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td colspan="3">内科専門医取得のための病歴準備</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>3年目</td><td colspan="6">不足している領域の研修</td><td colspan="6">希望診療科の研修</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="6">初診・再来外来週 1 回担当</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

地域研修では在宅医療や、地域に根ざした医療、高度医療機関への連携を依頼する立場の病院での研修を行うことにより、地域医療を幅広く研修することができる。希望科の研修は千葉大学医学部附属病院、東邦大学佐倉医療センター、東京女子医大八千代医療センターの中から希望科を選択する。初期研修中の症例を最大 80 例まで含め、サブスペシャリティー研修を多くとることも可能。

Japanese Red Cross Narita Hospital

高度医療に対応可能な設備と
濃密な研修プログラムでスペシャリスト集団を養成

血液腫瘍科

血液腫瘍科は病床数54床でうち独立型無菌室6床を有しています。3次救命救急センター併設の基幹病院の中の血液腫瘍科として、造血幹細胞移植など高度医療に対応しています。小児血液腫瘍科と協力し造血細胞移植センターを立ち上げ、AYA世代の治療にも力を入れています。

臨床第Ⅱ相、第Ⅲ相臨床試験に参加し次世代治療への責務を担っている診療科です。対象疾患は血液疾患に加え、原発不明がん、胚細胞腫瘍などです。治療に際しては情報開示を原則としています。

●日本血液学会、日本がん治療学会研修認定施設
●日本臍帯血バンク認定施設、日本骨髄バンク認定施設



骨髄内臍帯血移植の風景



第一血液腫瘍科部長
増田 真一

日本内科学会認定内科医・日本内科学会認定総合内科専門医・日本血液学会認定血液専門医、指導医・がん治療認定医機構がん治療認定医・造血細胞移植認定医

01 研修期間

3年間（または血液学会専門医取得まで）

02 目 的

内科学会専門医取得後に血液内科医または腫瘍内科医になる臨床経験を積み、学会発表および論文発表を行い専門医を取得する。

03 到達目標 （目標、長期目標、一般目標、取得手技、コンセプト等）

(1) 血液内科医、または腫瘍内科医への臨床経験をつむ。専門領域の疾患の診断、手技の取得、治療方針の決定、抗がん剤療法の実際、輸血療法、感染症治療、チーム医療、ICの取り方、ターミナルケア、各種臨床試験、移植医療（各種幹細胞移植すなわち自家移植—同種移植、フル移植—ミニ移植、骨髄バンク—臍帯血バンク、HLA半合致移植等）

(2) 症例をまとめる、あるいはテーマを決めて学会発表および論文発表をする。
＊注）血液腫瘍科後期研修コース、あるいは一般内科後期研修コースとしてローテーションをするかは応相談。

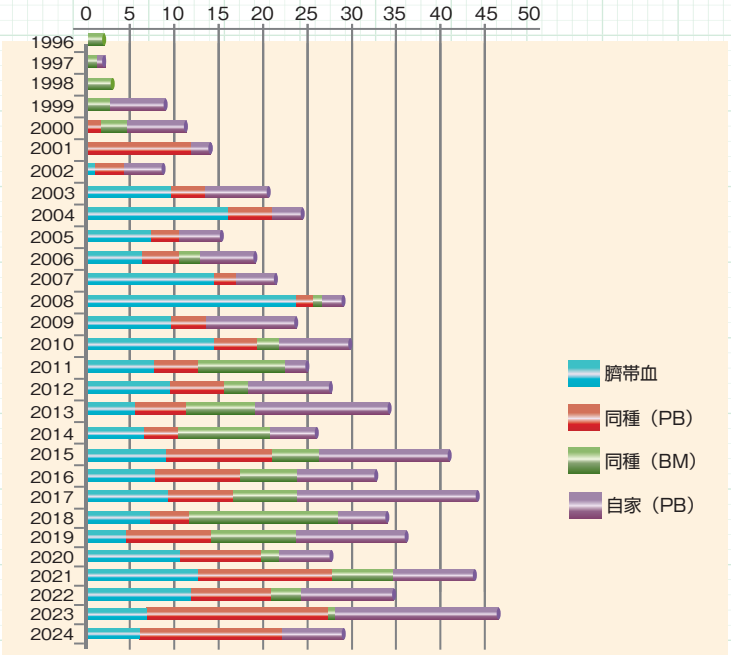
04 取得可能資格

学会名	取得可能資格	学会の研修施設等指定・認定状況
日本血液学会	日本血液学会専門医	日本血液学会研修施設
日本造血細胞移植学会	日本造血細胞移植認定医	非血縁者間造血細胞移植認定施設

05 研修期間中に経験する症例等について

（血液・腫瘍科疾患のみ）

●造血幹細胞移植数　2024年12月まで



2023年度　新規患者数

急性骨髄性白血病	32例
急性リンパ性白血病	10例
慢性骨髄性白血病	8例
慢性リンパ性白血病	2例
悪性リンパ腫	55例
ホジキンリンパ腫	3例
骨髄異形成症候群	31例
多発性骨髄腫	27例
再生不良性貧血	9例

様々な問題に広い視野から
対応できる総合的診療をめざす

総合内科

近年の医学の進歩に伴い、患者さんの診療は胃腸の病気は消化器の専門医、心臓病は循環器専門医というように病気の生じている臓器毎に各専門分野の医師に診療を受けるシステムを中心として高度に細分化して発展を遂げてきました。しかしながら、高齢化社会を迎えるにあたり、1人の患者さんが同時に様々な問題を抱えることが多くなり、従来の各専門医別の診療では対応しにくいことが多くなってきました。また、医療テクノロジーに偏重し、病気を見て病人を診ない専門診療の行き過ぎた細分化に対して、患者さんからの不満、あるいは医療側からの反省の声が叫ばれるようになってきました。

こうした背景のもと、臓器や疾患を選ばず、患者さんの健康上の問題に広い視野から対処することが必要となり、各地の病院で“総合内科”“総合診療科”などが開設されてきています。当院でもこうした目的のもと、平成16年4月より“総合内科”を開設致しました。

本プログラムでは、初期研修で培った臨床医としての基礎的能力の上に、内科医として十全な知識と経験を多数のベテラン専門医指導医の下で積み、医師として生涯の基礎となる見識と能力を育成することを目標とします。





副院長・総合内科部長

森尾 比呂志

日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
日本内分泌学会内分泌代謝科専門医・内分泌代謝科指導医
厚生労働省医政局長認定臨床研修指導医

01 研修期間

3年間（希望により1年単位の延長可能）

02 目 的

内科学会内科専門医取得に十分な臨床知識および経験を積み、内科医としての見識と自己研鑽能力の基礎を作る。また、総合内科専門医、内分泌代謝科専門医、リウマチ専門医、アレルギー学会専門医となる過程となるべき臨床経験を積む。

03 到達目標

目的・到達目標・プログラム内容

(1) 現行における総合内科専門医が取得できる力を習得する。

(2) 新専門医制度の内科専門医を取得するのに十分な臨床知識および経験を積み、内科医としての見識と自己研鑽能力の基礎を作る。

(3) 専門医の資格取得を目指す。総合内科専門医、内分泌代謝科専門医、リウマチ専門医、アレルギー学会専門医となる過程となるべき臨床経験を積む。

(4) 研修終了後、専門医としての見識を深めるため、さらに専修医として研修を継続、あるいは当院の内科スタッフを目指すことも可能です。この場合、希望により**内科以外の科をローテーションすることも可能です**。たとえば自分の将来の専門科目を見据えて、膠原病内科と関連する皮膚科や整形外科などの他科をローテーションすることも可能です。

04 取得可能資格

学 会 名	取得可能資格	学会の研修施設等指定・認定状況
日本内科学会	内科専門医	日本内科学会教育施設
日本内科学会	総合内科専門医 （取得のための準備）	日本内科学会教育施設
日本内分泌学会	内分泌代謝科専門医 （取得のための準備）	日本内分泌学会内分泌代謝科 専門医制度教育施設
日本リウマチ学会	リウマチ学会専門医 （取得のための準備）	日本リウマチ学会専門医研修施設
日本アレルギー学会	アレルギー学会専門医 （取得のための準備）	アレルギー学会教育施設

リウマチ・アレルギー内科

当院のリウマチ・アレルギー内科はH23年4月に新設されました。

当院では古くから、千葉大学旧第二内科の関連病院として、膠原病・リウマチ性疾患、および気管支喘息を中心としたアレルギー性疾患を多数扱って来ましたが、診療体制の拡充に伴い専門内科として標榜することとなりました。

近年、関節リウマチの診療においては、生物学的製剤の登場などにより、かつては治療困難であった症例も、寛解を目指した治療ができるようになって参りました。そのため、内科的治療を中心にすべき関節リウマチ症例は、近年飛躍的に増えてきており、リウマチ専門医の需要は非常に増大しています。

更に、当科が扱うべき疾患には、自己免疫疾患のみならず、診断困難な感染症や、近年注目されつつある自己炎症性疾患など、的確な診断が予後を大きく左右する疾患も数多く存在します。
こうした疾患を見る目を養うことは、一般内科医としての実力をつける上でも、極めて重要であると言えます。

また、膠原病をはじめとした全身性疾患の重症例・難治性症例への対応、日和見感染をはじめとした副作用への対応などには、より深い専門性と、幅広い分野にわたる病院としての総合力が同時に求められます。当院は、豊富な救急・入院・外来症例があり、ほぼすべての科を網羅する総合病院であるため、全身性疾患を学ぶ上で、必要な条件が整っています。

アレルギー性疾患については、主に気管支喘息を扱っています。また、ハチ・食物アナフィラキシーや DIHSなど薬剤性アレルギーにも対応しています。リウマチ学会・アレルギー学会・内科学会での発表や、論文作成も積極的に行っていただきたいと思います。

入院診療は、膠原病、リウマチ性疾患、アレルギー性疾患のみならず、一般の感染症も数多く診療しています。

将来、リウマチ専門医・アレルギー専門医を目指す方はもちろんのこと、総合内科専門医、他の分野の専門医を志向する方も大歓迎です。

実力のある医師、全身を広く診られる医師を目指し、共に研鑽をして参りましょう。



リウマチ・アレルギー内科部長兼アレルギー膠原病センター長

平栗 雅樹

日本リウマチ学会専門医・日本アレルギー学会専門医
日本内科学会総合内科専門医
厚生労働省医政局長認定臨床研修指導医
千葉大学医学部臨床教授

01 研修期間

1～2年

02 目的・到達目標

●総合内科後期研修の場合

以下に挙げるようなリウマチ性疾患・アレルギー性疾患・日和見感染などの感染症に対する診断・治療についての基本的な知識を身につけ、一般内科医としての実力向上を目指す

●専修医の場合

日本リウマチ学会専門医、日本アレルギー学会専門医、総合内科専門医の取得を目指す

(将来、免疫疾患の臨床研究・基礎研究を志す方も進路の相談に乗ります)

03 取得可能資格

学 会 名	取得可能資格	学会の研修施設等指定・認定状況
日本リウマチ学会	リウマチ学会専門医 （取得のための準備）	日本リウマチ学会専門医研修施設
日本アレルギー学会	アレルギー学会専門医 （取得のための準備）	アレルギー学会教育施設

04 当科が担当する疾患

関節リウマチ、膠原病(全身性エリテマトーデス、多発筋炎・皮膚筋炎、混合性結合組織病、強皮症、シェーグレン症候群など)、血管炎(顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、高安動脈炎、巨細胞性動脈炎、IgA血管炎、クリオグロプリン血症など)、膠原病類縁疾患(リウマチ性多発筋痛症、成人スティル病、ベーチェット病、サルコイドーシスなど)、自己炎症性疾患(家族性地中海熱、TNFレセプター関連周期熱症候群TRAPSなど)、気管支喘息、COPD、感染症一般(輸入感染症、日和見感染感染症を含む)、ウイルス性疾患(パルボウイルス、EBウイルス、サイトメガロウイルス、重症インフルエンザなど)、アナフィラキシー(ハチ、食物)、DIHSなどの薬剤アレルギー

内科医としての守備範囲が広い
腎臓疾患専門医を目指す

腎臓内科

慢性腎臓病は末期腎不全や心血管疾患の大きな危険因子であることから、慢性腎臓病対策の重要性が認識されてきています。

しかし、当院においては入院時まで未治療で、入院と同時に透析導入が必要な慢性腎不全の患者さまがまだ多数おり、慢性腎臓病への啓蒙が必要と考えてます。そういう中で、健康診断あるいはかかりつけ医から紹介していただいた①蛋白尿が多い②血尿・蛋白尿を示す③eGFRが低下している患者さまに対し、適応症例に腎生検を施行します。状態が安定している患者さまについてはかかりつけ医と連携を密にしながら治療を続けたいと考えております。

また当科では、急性・慢性糸球体腎炎、急性腎不全、保存期慢性腎不全およ び血液透析導入、全身性疾患伴う腎病変などの入院を扱っています。2015年の入院総数は255名でした。

血液透析は、ベッド数15床で導入および合併症治療を中心に行っています。2015年の透析導入患者数（糖尿病・代謝内科導入を含む）は52名でした。導入後は近隣の透析施設に紹介してます。また、合併症治療のため、当科、消化器内科、血液内科、循環器内科、眼科、外科、脳外科、精神科、形成外科などに近隣の透析施設より紹介されます。

消化器内科と連携し潰瘍性大腸炎やクローン病の血液浄化療法（GCAP,LCAP）も行ってます。

腎臓病に関する豊富な症例を研修することができると考えています。



腎臓内科部長
倉本 充彦
日本内科学会認定医、日本内科学会総合内科専門医
日本腎臓学会専門医・指導医
日本透析医学会専門医

01 研修期間

3年間（希望により1年単位の延長可能）

02 目 的

当院は北総地域の3次救急対応の地域拠点となる総合病院ですが、専門性を要する腎疾患の診療を必要とする患者が年々増加しています。当院腎臓内科は以下の具体的目標とする専門研修を行い、腎臓専門医の育成を目指しています。併せて広く内科診療のプライマリーケアに習熟し、一般内科医としての素養を高めることを目指しています。

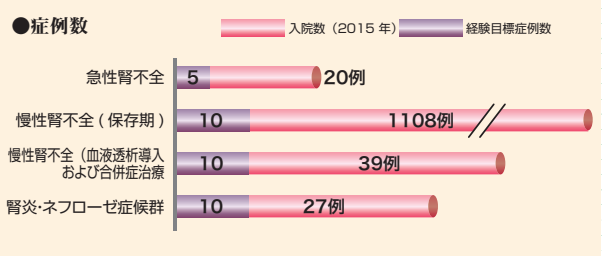
03 到達目標 （目標、長期目標、一般目標、取得手技、コンセプト等）

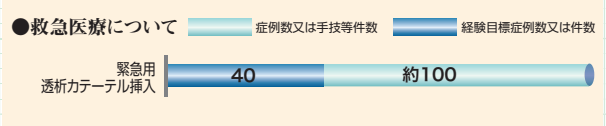
(1) 腎炎、ネフローゼ、腎不全等腎臓内科領域の疾患の診療に関わる専門的知識を習得する。
(2) 各種血液浄化療法に関わる専門的知識を習得する
(3) 腎生検等、腎臓内科医として必要な技術を習得する。
(4) 腎組織標本の診断に関し、腎臓内科医として必要な病理学的知識を習得する。
(5) 内科一般の救急診療等を通して全身的、全人的な幅広い一般常識を習得する。
(6) 症例検討に十分な文献的検索を加え、貴重な症例を報告できる能力を鍛える

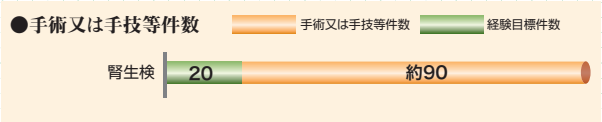
04 取得可能資格

学会名	取得可能資格	学会の研修施設等指定・認定状況
日本内科学会	日本内科学会認定内科医	日本内科学会教育施設
日本腎臓学会	日本腎臓学会専門医	日本腎臓学会専門医制度基幹
日本透析医学会	日本透析医学会専門医	日本透析医学会教育関連施設

05 研修期間中に経験する症例等について







・経皮的シャント拡張術 -（放射線科医指導）- 希望により研修可
・内シャント手術 -（心臓血管外科医指導）- 希望により研修可

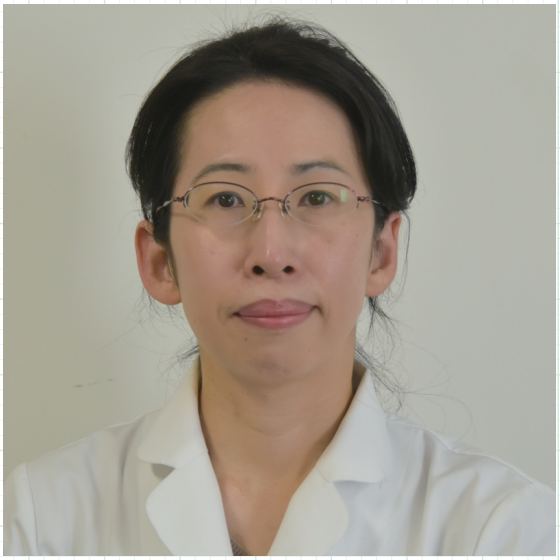
糖尿病・内分泌代謝内科

糖尿病・内分泌代謝内科は糖尿病を始めとする以下にある病気の診断、治療を行っています。糖尿病については、ケトアシドーシスなどの高血糖緊急症（急性合併症）の治療から全く症状のない2型糖尿病の支援まで幅広く関わっています。そして軽症から重症の合併症（糖尿病網膜症→視力障害・失明、腎症→腎不全・透析、神経障害→壊疽・自律神経障害、動脈硬化→脳梗塞・心筋梗塞・ASO、感染症など）の治療についても他科と連携しながら行っています。

特に腎症に対しては、末期腎不全・血液透析まで転院、転科することなく継続して腎臓内科・透析センターと連携しながら糖尿病内科医及び同じスタッフが対応しています。1型糖尿病の治療においては、持続血糖モニター（CGM/FGM）の活用、インスリンポンプ導入（AEDも含む）も積極的に行っています。

糖尿病教室・教育入院、糖尿病腎症の教育入院などは、他職種や患者さんと協力しながらチーム医療を行っています。また、産婦人科、新生児科（NICU）と協力し、妊娠糖尿病（GDM）のスクリーニングから安全な出産・出産後のフォローアップ、1型糖尿病妊婦も含む安全な糖尿病合併妊娠の管理・治療に多職種も参加したチームで取り組んでいます。

内分泌疾患については、下垂体・甲状腺・副腎疾患を始めとして、各種負荷試験を行い診断し、他の高度医療機関とも連携を図り治療しています。



日本糖尿病学会教育認定施設

内分泌代謝・糖尿病領域専門研修施設
糖尿病・内分泌代謝内科部長

橘　香穂里

・日本内科学会認定医、総合内科専門医
・日本糖尿病学会専門医
・日本糖尿病学会教育指導医
・内分泌代謝・糖尿病領域専門研修指導医

01 研修期間

2年間(希望により1年単位の延長可能)

02 目 的

内科専門医取得に十全な臨床知識および経験を積み、内科医として見識と自己研鑽能力の基礎を作る。またその基礎の上に糖尿病代謝内科医または内分泌代謝内科医への過程となるべき臨床経験を積む。

03 到達目標 (目標、長期目標、一般目標、取得手技、コンセプト等)

(1)内科専門領域の急性慢性疾患の全てについて主治医としてマネージメントができ、専門的診療についてもその適否が的確に判断できる。
(2)内科救急領域で必要な全ての応急的対応ができ、さらに専門的救急診療手技にも参加できる。
(3)臨床医としての高い見識と広い視野を持ち、様々な条件の患者に対して、与えられた医療環境で最善を尽くすことができる。このため院内で行われる様々な医療に関する研修会に参加する。
(4)内科学会内科専門医の資格を取得する準備を行う。症例報告などの学会発表も積極的に指導し、“内科専門医”取得を目指して総合的な観点から日々の診療を行うよう指導している。症例の経験では、新専門医制度に対応可能な指導体制も準備している。
(5)他科、特に外科系各科に入院となる糖尿病合併患者(1型、2型問わず)が安全に手術を受けられるように、術前術後の代謝管理(経口薬の調節・中止、積極的なインスリン療法、経静脈的インスリン療法など)に積極的に協力・対応する。
(6)糖尿病・内分泌代謝内科での臨床経験を積む。専門領域の疾患の診断と治療、最先端の検査・治療(インスリンポンプ療法-(CSII/AID)、血糖連続モニタリングシステム(CGMS)による評価を含む)、チーム医療(糖尿病教育・患者支援、地域との連携など)
(7)内分泌疾患について各種負荷試験を行い診断し、その治療を行うことができる。

04 取得可能資格

学 会 名	取得可能資格	学会の研修施設等指定・認定状況
日本内科学会	日本内科学会内科専門医	日本内科学会教育病院
日本糖尿病学会	日本糖尿病学会専門医 (取得のための準備)	日本糖尿病学会認定教育施設
日本内分泌学会	日本内分泌学会専門医 (取得のための準備)	日本内分泌学会認定教育施設

日本専門医機構による内分泌代謝・糖尿病(領域)専門医制度にも対応しています。

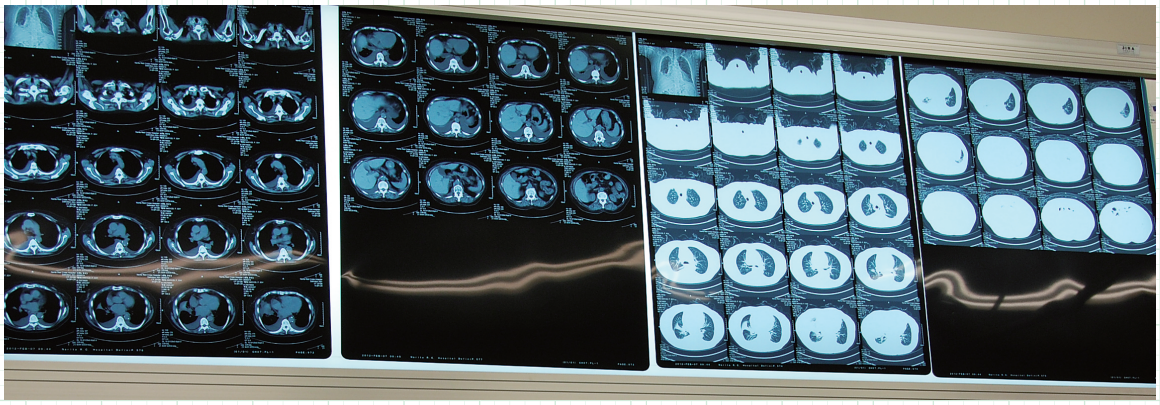
05 研修期間中に経験する症例等について

1型糖尿病、2型糖尿病、DKA、HHSなど、糖尿病(その他肝硬変合併、膵炎合併)、妊娠糖尿病、糖尿病合併妊娠、糖尿病性合併症(糖尿病網膜症、腎症、神経障害)、下肢閉塞動脈硬化症(PAD)、内分泌疾患:下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患、副甲状腺疾患など、低血糖症(インスリノーマを含む)、脂質異常症・高血圧症・高尿酸血症、肥満症(高度肥満の超低カロリー食療法を含む)、その他ビタミン異常などの代謝疾患

Japanese Red Cross Narita Hospital

消化器内科

当消化器内科は救急処置を必要とする急性の病気から肝炎、肝硬変、消化器ガンなどの慢性の病気まで幅広く対応する医療を心がけています。





第一消化器内科部長
福田 和司

01 研修期間

6〜12ヶ月以上

02 目的

内科学会認定内科医取得に十全な臨床知識および経験をつみ、内科医として見識と自己研鑽能力の基礎を作る。またその基礎の上に消化器内科医となる臨床経験をつむ。

03 到達目標

消化器内科で遭遇するcommon disease に対し、primary care としての対処を自らの判断で一通り施行できる能力を身につける。必要に応じて専門医に相談すべき病態か否かを判断することができる。

04 取得するべき手技

初期研修医は手技の取得できる期間の研修では無いため、検査、処置の流れや侵襲の程度などを見学してもらう。
専攻医はあらゆる診断、治療手技に参加し、助手より開始し、術者としての経験を積んでいく、取得できる手技は研修期間、それまでの経験による。

05 研修期間中に経験する疾患

消化管出血（食道静脈瘤破裂、胃・十二指腸潰瘍、大腸憩室出血など）、大腸炎（感染性、虚血性、憩室炎など）、急性腹症（消化管穿孔、虫垂炎、イレウス、急性胆嚢炎、急性胆管炎、急性膵炎など）、消化器悪性腫瘍（食道癌、胃癌、大腸癌、肝細胞癌、胆道癌、膵癌）、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）、慢性肝炎・肝硬変等の消化器疾患全般



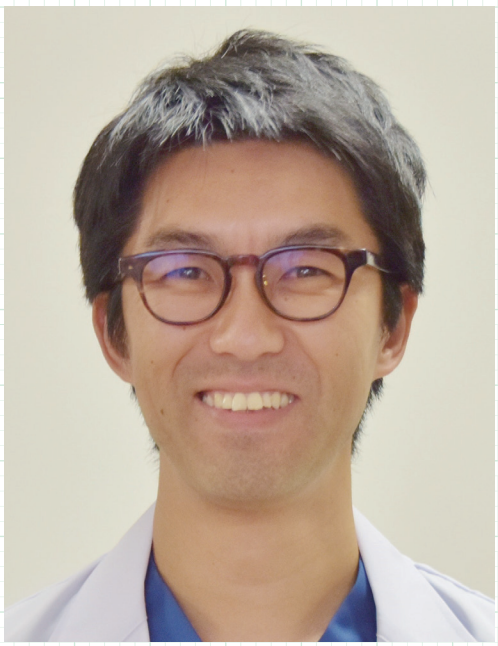
循環器内科

虚血性心疾患、不整脈、重症心不全を含めた循環器疾患全般に対応しています。

すべて治療方針は、最新のエビデンスや合併疾患に伴う患者さんの予後などを総合的に考慮して決定しています。また三次救急病院として年間100例以上の急性心筋梗塞に対して24時間対応の体制で緊急カテーテルを実施しています。検査・治療手技の年間件数は、およそCAG700例、PC380例（うち緊急240例）、カテーテルアブレーション280例、下肢動脈に対するカテーテル治療100例、ペースメーカー／ICDといった心臓植え込みデバイス手術120例となっています。また重症循環不全に対する治療として補助循環用ポンプカテーテル（インペラ）も使用でき、このような治療を駆使して、心臓血管外科・救急科とも連携しながら重症症例の治療も行っています。当院での循環器内科研修においては、習熟度に応じてスタッフと共に循環器疾患の検査・治療手技を幅広く習得してもらいたいと考えています。









第一循環器内科部長

橋口　直貴

日本内科学会認定内科医、日本内科学会認定総合内科専門医、
日本循環器学会認定循環器専門医、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医

01 研修期間

2年間

02 目 的

内科専門医取得に十全な臨床知識および経験をつみ、内科医として見識と自己研鑽能力の基礎を作る。またその基礎の上に循環器内科の専門医となる過程となるべき臨床経験をつむ。

03 到達目標（目標、長期目標、一般目標、取得手技、コンセプト等）

(1)内科専門領域の急性慢性疾患の全てについて主治医としてマネージメントができ、専門的診療についてもその適否が的確に判断できる。

(2)内科救急領域で必要な全ての応急的対応・初期治療ができ、さらに専門的救急診療手技にも参加できる。このため全研修期間を通じ、急性心筋梗塞などの救急疾患に対して24時間拘束体制で対応するローテーションに参画する。この際には、循環器専門医を指導医としてのチーム体制を敷いている。

(3)臨床医としての高い見識と広い視野を持ち、様々な条件の患者に対して、与えられた医療環境で最善を尽くすことができる。このため院内で行われる様々な医療に関する研修会に参加する。

(4)内科学会認定内科医の資格を取得する。症例報告などの学会発表も積極的に指導し、認定内科医取得を目指して総合的な観点から日々の診療を行うよう指導している。

(5)循環器内科医への臨床経験をつむ。心臓・血管系に関する豊富な知識と技能の習得を目指し、循環器疾患の適切な診断・治療及び予防ができる能力を有することを目標とする。

04 取得可能資格

学 会 名	取得可能資格	学会の研修施設等指定・認定状況
日本内科学会	日本内科学会認定内科医	日本内科学会教育病院
日本内科学会	日本内科学会内科専門医	日本内科学会教育病院
日本循環器学会	日本循環器学会専門医	循環器専門医研修施設
日本不整脈心電学会	不整脈専門医	日本不整脈心電学会研修施設
日本心血管インターベンション治療学会	心血管カテーテル治療認定医・専門医	日本心血管インターベンション治療学会研修施設

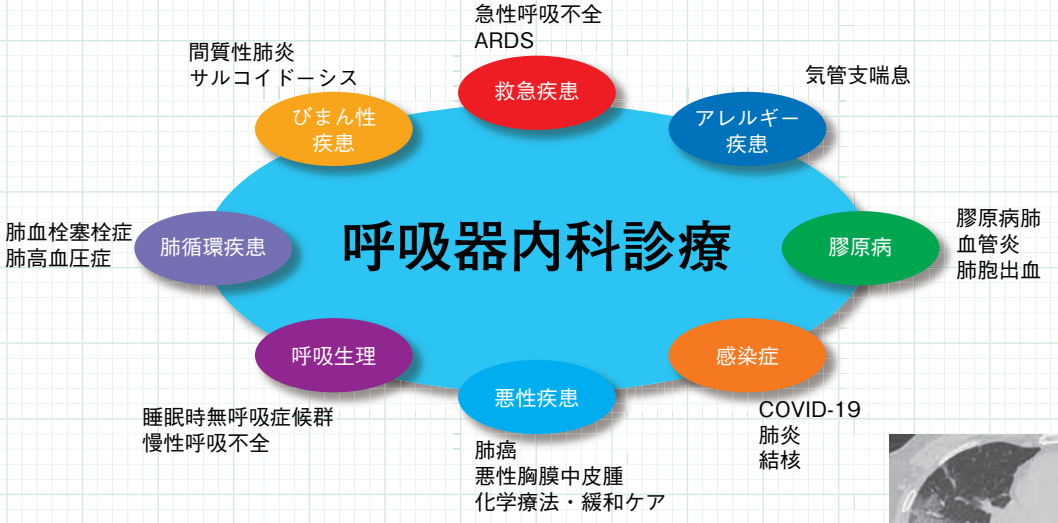
05 研修期間中に経験する症例・習得するべき手技

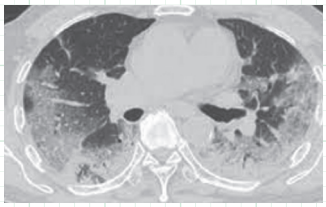
●急性心筋梗塞、狭心症、うっ血性心不全、不整脈、大動脈瘤・大動脈解離、肺動脈血栓塞栓症、閉塞性動脈硬化症、心筋症、感染性心内膜炎

●心臓カテーテル検査、PCI、カテーテルアブレーション、末梢血管形成術、ペースメーカー／ICD／CRT手術、IVC filter留置、IMPELLA管理、心エコー、運動負試験

呼吸器内科

呼吸器内科診療は，肺炎・COPD・気管支喘息などの common disease，呼吸管理を必要とする急性～慢性呼吸不全，肺癌・悪性胸膜中皮腫などの悪性腫瘍，間質性肺炎や呼吸調節障害などの難病，睡眠時無呼吸症候群などの呼吸生理の知識を要す疾患など幅広い領域を担当する診療科です．将来どの科の医師を志すにしても遭遇する頻度の高い疾患を経験できます．特に，現在は世界中で医療の高度化が進み，高齢化，未知の感染症が流行している状況からも呼吸器診療は常に高いニーズがあります．診療を通して，胸部診察，胸部X線・CTなどの画像読影，呼吸管理，呼吸器内視鏡などを経験しながら，他領域の疾患を他の診療科と連携しながら私たち専門医 /指導医と一緒に幅広く疾患を学ぶことが可能です．











第一呼吸器内科部長
寺田　二郎

日本呼吸器学会認定 呼吸器専門医・指導医、日本呼吸器内視鏡学会認定　気管支鏡専門医・指導医、日本内科学会認定 認定内科医・総合内科専門医、日本がん治療認定機構 癌治療認定医
日本内科学会認定 内科救急（JMECC）インストラクター、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会認定 呼吸ケア指導士（上級）、日本救急医学会 ICLS（Immediate Cardiac Life Support）インストラクター、日本睡眠学会専門医

01 研修期間

1-2年（希望により変更可能）

02 目 的

急性期から慢性期（緩和療法を含む）幅広い呼吸器疾患を学び，経験することを目的とする。また内科専門医、呼吸器内科専門医を取得するのに必要な臨床経験を積む。

03 到達目標（目標、長期目標、一般目標、取得手技、コンセプト等）

(1)救急診療，高度専門診療のみならず，一般的な内科診療を通して，内科医としての総合力を身につけること。

(2)呼吸管理，胸部画像読影ができるようになること。

(3)幅広い呼吸器疾患に対して，必要な初期対応，救急対応を身につけること。

(4)診察，検査，画像所見から，各呼吸器疾患を鑑別していくスキルを身につけること。

(5)将来呼吸器内科専門医，気管支鏡専門医を取得できるようにすること。

04 取得可能資格

学 会 名	取得可能資格	学会の研修施設等指定・認定状況
日本内科学会	日本内科学会内科専門医	日本内科学会教育病院
日本呼吸器学会	日本呼吸器学会専門医（取得のための準備）	日本呼吸器学会認定連携施設
日本呼吸器内視鏡学会	気管支鏡専門医（取得のための準備）	日本呼吸器内視鏡認定施設

指導体制と研修方法

呼吸器内科指導医2名，呼吸器内科専門医2名を含む上級医4名による指導

主に入院患者の受け持ち（チーム医療），胸部画像読影，検査（気管支鏡），手技（胸腔穿刺，胸腔ドレナージなど），呼吸管理（非侵襲的陽圧呼吸管理，人工呼吸，ハイフローネーザルカヌラ，酸素療法）

05 研修期間中に経験する症例・習得するべき手技

●疾患：呼吸不全，肺炎をはじめとする呼吸器感染症，COPD、気管支喘息，間質性肺炎，咳嗽・喀痰症状の管理，胸部異常陰影，肺がんをはじめとする悪性腫瘍，睡眠時無呼吸症候群

●取得すべき手技：胸部画像診断，呼吸管理，胸腔穿刺，胸腔ドレナージ，呼吸器救急対応，気管支鏡

精神神経科

精神神経科は新専門医制度の研修基幹病院に指定されています。当科は総病床数710床の総合病院にあって精神病床5048床（現在運用は48床）を有し、救命救急センターと連動しながら24時間365日精神科救急を行っており、総合病院における精神科救急・急性期治療を実践しております。

精神科入院治療の場面では、統合失調症や躁状態や重症うつ病といった気分障害などの主要な精神疾患の入院治療を経験することができ、総合病院の精神科であるため、一般病棟では自殺企図やせん妄などのリエゾン・コンサルテーションの対象疾患を多く経験することができます。

外来では、適応障害、不安障害、うつ病、や認知症などの受診者が多く、その他統合失調症の初期状態、摂食障害なども経験でき、精神疾患の診断プロセスについて学ぶことができます。また、児童青年期精神疾患の受診者も多く、これらについても研修も可能です。このほか精神科デイケアや精神科訪問支援センターを併設しており、精神科リハビリテーションや地域ケアも実施しています。

従って、当科では精神疾患に関しては統合失調症から気分障害、認知症、症状器質性疾患、児童青年期精神疾患まで一通り研修することが出来、治療としては一般的な薬物療法、精神療法から修正型電気けいれん療法やクロザピン治療などの難治性精神疾患に対する治療、さらにはリハビリテーション、地域ケアおよびリエゾン・コンサルテーションまで包括的に実践しており、経験することができます。

専攻医は指導医からのマンツーマンの指導を受けながら常時入院患者数名の主治医となり、さらに精神保健指定医のバックアップを受けながら精神科救急も担当することになります。外来やリエゾンでは予診をとりながら精神疾患の診断治療を習得することができ、当院は精神科医として初期の臨床経験を積むためには最も適した医療機関と思います。

研修連携病院の下総精神医療センターでは精神科病院での診療や医療観察法の入院治療や司法精神医学について研修することができます。

国立国際医療研究センター国府台病院では、児童思春期症例の入院治療を通して、児童思春期精神医学についてより深く研修することができます。

東邦大学医療センター佐倉病院は、就業者のうつ病を対象とした職場復帰プログラム（リワークデイケア）を行っており産業精神医学について学ぶことができるほか、研修基幹施設とは異なる精神病床を持たない総合病院におけるリエゾン・コンサルテーションを通じて、一般医療における精神医学の必要性について学ぶことができます。

メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれは、隣接した訪問看護ステーションと共に訪問型の地域包括支援プログラム（ACT）を実施しており、わが国における先進的な地域医療システムに触れることができます。千葉県こども病院では、小児総合病院における児童精神科（精神病床はなし）の研修を行うことができます。

このように、当院のプログラムは研修基幹施設での主要な精神疾患に対する診断治療の研修を基盤に、研修連携施設では、司法精神医学、児童精神医学、産業精神医学、地域精神医療などの精神医学における先端分野に触れることが出来、専攻医の将来の精神医学、精神医療における進路選択にも寄与しうるものと考えています。



精神科プログラム統括責任者

佐藤 茂樹

精神保健指定医
日本精神神経学会：専門医・指導医
日本総合病院精神医学会：専門医・指導医

01 研修期間

3年間　定員　2名／各年

1年目 当院	2年目 当院	3年目前半 連携施設	3年目後半 当院

2年間は当院で3年目は連携施設（1～2ヶ所）での研修になります。
連携施設:国立国際医療研究センター国府台病院（児童精神科）、東邦大学医療センター佐倉病院（リワークプログラム）、下総精神医療センター（司法精神医学）、メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ（ACT）、千葉県こども病院（児童精神科）

02 目 的

3年間の研修期間で新専門医制度の精神科専門医となるために必要にして十分な臨床研修を行います。
さらに「精神保健指定医」「リエゾン精神医学専門医（日本総合病院精神医学会）」の取得のための症例を十分に経験することができます。
*日本総合病院精神医学会の研修施設に認定されています。

03 研修システムの特徴

総合病院有床精神科として精神科閉鎖病床48床を有し、精神科救急、精神科急性期治療、リエゾン・コンサルテーション、地域と連携した精神科リハビリテーション、児童青年期精神科医療（外来）など包括的な精神科医療を行っています。統合失調症、気分障害をはじめとした主要な精神疾患の患者を受け持ち、面接法、診断と治療計画、精神療法、薬物療法の基本を学ぶことができます。さらに、リエゾン・コンサルテーション、身体合併症、難治性精神疾患治療　(m-ECT、クロザピン)、児童青年期症例等、精神科臨床を幅広く経験することができます。成田空港に近接した病院として外国人精神疾患患者の診療も経験することができます。新専門医制度における精神科専門医を取得するだけでなく、臨床研究を指導医のもとに行い、国際学会を含む学会発表、論文発表ができるように指導いたします。

04 代表的な週間スケジュール（定期的に行なわれている検査を含む）

	月	火	水	木	金
午前	病棟 m-ECT	病棟 リエゾン	外来 リエゾン	病棟 m-ECT	病棟 m-ECT （隔週）
午後	病棟 リエゾン 救急診療 部長回診	病棟 リエゾン 救急診療	病棟 リエゾン 救急診療	病棟 リエゾン 救急診療	病棟 リエゾン 救急診療
PM5時 30分から			精神科医局会（症例検討会含む）		精神科連絡会議 （月1回）

05 研修期間中に経験する病態

急性精神病状態、うつ状態、躁状態、せん妄、認知症、パニック・強迫等の神経症状態、児童精神疾患など精神症状のほとんど全てを経験できます。

06 研修期間中に経験する疾患・習得するべき手技

●統合失調症、気分障害、不安障害、器質性症状性精神障害（認知症を含む）など精神疾患のほとんど全てを経験できる。
●精神科薬物療法、精神科面接技法、m-ECTの施行、急性精神病状態に対する急速鎮静法、リエゾン・コンサルテーション診療技術、成年後見制度における精神鑑定、児童精神医学的アプローチなど。
その他、多職種連携によるチーム医療、地域医療を経験し、チーム医療における医師としてのリーダーシップを発揮できるようになることをめざします。

全国屈指のスペシャリスト集団から様々な症例を学ぶ

小児科

国際都市成田を中心とする千葉県北総地区の総合基幹病院として、新生児、小児科の一般一次医療から高度三次医療まで幅広く対応し診療しています。

●日本小児科学会認定小児科専門医研修施設、小児科専門医研修支援施設です。

●日本臍帯血バンク移植認定施設、日本小児がん研究グループ(JCCG) 日本小児白血病・悪性 リンパ腫研究グループ(JPLSG)、東京小児癌白血病研究グループ(TCCSG) 認定施設です。

●特定感染症指定病院です。陰圧空調室7床(新感染症病床2、1類感染症病床1、2類感染症病床4) を備え、成田空港検疫所と協力、千葉県の感染症対策の中心的業務を担っています。

●血液悪性腫瘍、内分泌疾患、小児救急、新生児、感染症全般については、千葉県全域から患者を受け入れています。

●血液腫瘍グループは小児血液腫瘍科として活動しています。TCCSG(東京小児がん白血病研 究グループ) では症例数の多い施設です。非血縁者間骨髄移植診療科認定・非血縁者間 骨髄採取施設認定を取得しています。初発造血器疾患は年間約25～30例、造血幹細胞移植も年間約5例程度施行しております。

●首都圏からの移植紹介も随時受け入れています。小児循環器外来では新生児・乳幼児・児童の先天性心疾患、川崎病、不整脈などの診療を行っています。小児循環器専門医修練施設に認定されています。

●内分泌疾患は、低身長・甲状腺疾患・糖尿病・肥満症等の診療、先天性甲状腺機能低下症・先天性副腎皮質過形成症の精検指定病院です。

●慢性疾患等による長期入院学童に対して、小、中学校の院内学級があり、ベッドサイド教育を積極的に行っています。心理療法士によるカウンセリングも行っています。



小児科プログラム統括責任者

野口 靖

第一小児科部長／専門分野 造血器腫瘍
日本小児科学会専門医・指導医

01 研修期間

●3 年間研修

成田赤十字病院 12 ヶ月	東京女子医科大学八千代医療センター6ヶ月 or 松戸市立総合医療センター6ヶ月 or 千葉市立海浜病院6～9ヶ月 or 千葉大学医学部附属病院6～9カ月	下志津病院３ヶ月 or 帝京大学ちば総合医療センター３ヶ月 or 多古中央病院3ヶ月	成田赤十字病院 12～15 ヶ月

02 特徴

当院小児科は小児血液腫瘍科、小児科、新生児科で構成されています。中でも小児血液腫瘍科は小児科の主要な部門です。小児血液学会疾患登録でも腫瘍性疾患の登録は全国10 位以内です。多職種からなる小児がん治療チームが活動しています。またその他の小児科疾患のほとんどを小児総合内科で経験できます。中でも内分泌疾患は先天性甲状腺機能低下症・先天性副腎皮質過形成症の精検指定病院でもあり、低身長、甲状腺疾患、糖尿病、など多様な病気を経験できます。

03 診療内容

血液疾患、腫瘍、新生児疾患、呼吸器疾患、アレルギー、神経・筋疾患、心身症、腎・泌尿器疾患、循環器疾患、染色体異常・先天奇形、栄養障害・代謝性疾患・消化器、先天代謝異常・内分泌疾患、免疫異常、膠原病、リウマチ性疾患、感染症など

04 取得可能資格

学 会 名	取得可能資格	学会の研修施設等指定・認定状況
日本小児科学会	日本小児科学会専門医	日本小児科学会認定小児科専門医研修施設
日本血液学会	日本血液学会専門医	日本血液学会研修施設
日本小児血液がん学会	小児血液がん専門医	日本小児血液がん学会認定研修施設
日本周産期・新生児医学会	日本周産期・新生児医学会 周産期(新生児)専門医	日本周産期・新生児医学会認定/ 新生児専門医研修指定施設

05 診療実績

年間患者数(延べ数)

外来　約 18,839 人 (一日平均77.5 人)

入院　一般小児 : 約13,078人 (一日平均35.7人)、未熟児新生児入院数:約 2,258 人

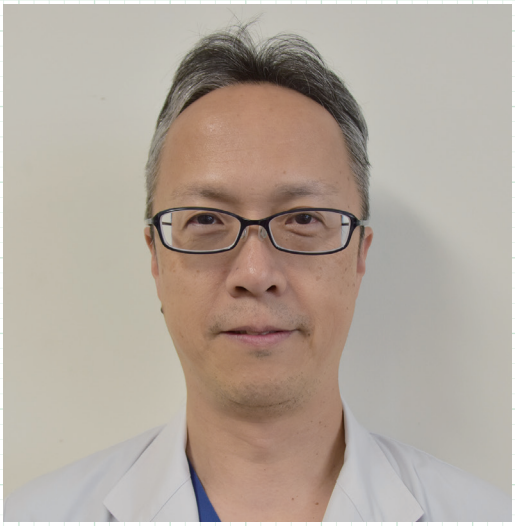
06 施設認定

日本小児科学会認定小児科専門医研修施設、小児科専門医研修支援施設、日本臍帯血バンク移植認定施設、日本小児がん研究グループ (JCCG) 日本小児白血病・悪性リンパ腫研究グループ (JPLSG)、東京小児癌白血病研究グループ(TCCSG)認定施設、特定感染症指定病院、先天性甲状腺機能低下症・先天性副腎皮質過形成症の精検指定病院、非血縁者間骨髄移植診療科認定・非血縁者間骨髄採取施設認定、日本血液学会専門医研修施設、小児循環器専門医修練施設　小児神経専門医修練施設
日本周産期・新生児医学会認定新生児専門医研修指定施設

07 後期研修経験者の現況

当院で後期研修を経験した方々は、現在以下の病院で活躍中です。
成田赤十字病院、国立病院機構名古屋医療センター、東京女子医科大学八千代医療センター 、聖路加国際病院、榊原記念病院、神奈川県立こども医療センター、長野県立こども病院、千葉県こども病院、滋賀県立小児医療センター、国立がんセンター、千葉大学小児科、東京大学小児科、名古屋大学小児科、滋賀医科大学小児科、岡山大学小児神経科、日本医科大学小児科 等

新生児科



新生児科部長

戸石 悟司

日本周産期・新生児医学会認定新生児専門医研修指導医
日本小児科学会専門医・指導医

01 研修期間

小児科後期研修の場合最低６カ月必須　希望時１年間まで延長可能
産婦人科後期研修の場合は適宜相談

02 目的

小児科専門医取得ならびに周産期専門医（新生児）取得
ただし、周産期専門医は小児科専門医を取得の上さらに3年間の研修を経て取得可能

03 特徴

当院新生児センターはNICU（人工呼吸器等の集中治療を必要とする児の病棟）9床と、GCU（やや軽症な新生児の病棟）18床の合計27床で構成されています。北総（印旛・香取）・東総（匝瑳）地域の中核としてフル稼働しており、東千葉のほとんどのエリアならびに茨城東南部地域からの入院依頼があります。年間約300例の入院症例があり、 その内訳は、超低出生体重児年間平均約10名、極低出生体重児年間平均約20名、新生児搬送（院外で出生した児の受け入れ）年間平均約100件です。

また、新生児科退院後の新生児フォローアップ外来も行っており、3歳もしくは小学校就学前（6歳）までの退院後支援ならびに相談を新生児科医が行っています。

当科での研修は、小児科医としてスキルアップが行えるように目標設定しています。

①ICUでの研修として人工呼吸器管理などの呼吸・循環管理が行えるようになる

②点滴（カテーテル）、挿管、胸腔穿刺などの手技や新生児蘇生法（NCPR）の資格取得

③染色体異常や先天奇形を有する児や、早産児や医療的ケア児などの退院後のフォローアップを実際に　経験することで地域や療育機関との連携の研修が可能

04 経験することが可能な特殊治療

脳低体温療法、新生児NO吸入療法、新生児動脈管結紮術（当院心臓血管外科医手術）

05 当研修プログラムの週間スケジュール

<table>
<tr><th></th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土・日</th></tr>
<tr><td>8:15-9:00</td><td colspan="5">朝回診、カンファレンス
受け持ち患者につき上級医とのディスカッション</td><td rowspan="5">当番
研究会
学会</td></tr>
<tr><td>9:00-11:00</td><td colspan="5">病棟　月　木　帝王切開日（必要時立ち合い）
学生・初期研修医の指導</td></tr>
<tr><td>11:00-11:30</td><td colspan="5">病棟カンファレンス
勉強会</td></tr>
<tr><td>午後</td><td colspan="5">病棟、専門外来（週1回）、正常新生児診察（産科）
学生・初期研修医の指導</td></tr>
<tr><td>13:00-14:00</td><td colspan="3"></td><td>小児科医との
症例検討会</td><td>抄読会</td></tr>
<tr><td>16:00-17:00</td><td></td><td></td><td></td><td>産婦人科医との
症例検討会</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>16:30～</td><td colspan="5">夕方回診→担当医は当直（週１回）</td></tr>
</table>

06 症例検討会など

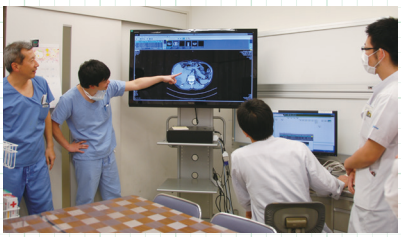
毎週　木曜日	小児科との小児病棟カンファレンス
毎週　木曜日	産婦人科との周産期カンファレンス
年 に 2 回	千葉県周産期新生児研究会に発表ならびに出席
毎　年	日本周産期新生児学会、日本新生児成育医学会に発表ならびに出席

すべての外科疾患に対応できる
本物の外科専門医になる
外科

千葉県北総地域の基幹病院として、また印旛地区のがん拠点病院として手術件数は年々増加しています。悪性疾患については特に力をいれており、それぞれのガイドラインにのっとり標準的な治療をするのが基本ですが、患者の個別性を考慮したきめ細かい治療方針を術前・術後のカンファレンスにおいてスタッフ全員で検討・決定しています。また1次から3次まで救急を受け入れており、急性虫垂炎、腸閉塞、消化管穿孔、腹部外傷など24時間常時対応しています。

部長のほかに臨床経験10年以上の中堅スタッフが中心となり、精力的に診療と研修教育に当たっています。スタッフは皆豊富な臨床経験と各専門分野を有し集学治療、外科侵襲と栄養代謝、外科病理学、内視鏡診断と治療、血管造影検査、超音波診断学、等の得意分野を持ち、最先端の知見を臨床の場に生かせるよう努力しています。





副院長・外科専門プログラム責任者

清水　善明

外科学会専門医、外科学会指導医、
消化器外科学会専門医、消化器外科学会指導医、
肝胆膵外科学会高度技能指導医、
がん治療認定医、
厚生労働省医政局長認定臨床研修指導医

01 研修期間

1～3年間

02 目 的

●すべての外科疾患の救急診療、急性期診療、慢性期診療（ターミナルケアを含む）に適切に対応できる外科医を育成すること
●将来、下記資格を取得するのに必要な症例を経験すること
・外科専門医　・消化器外科専門医　・乳腺専門医

03 到達目標 （目標、長期目標、一般目標、取得手技、コンセプト等）

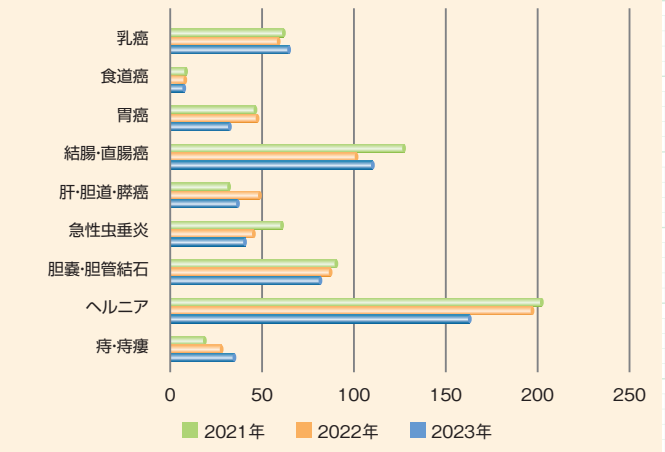
(1) すべての外科疾患の救急診療、急性期診療、慢性期診療（ターミナルケアを含む）に適切に対応できる診療能力を習得する
(2) ほぼすべての外科疾患の手術を数多く経験する
(3) 超音波検査（腹部、乳腺）・内視鏡検査（上部、下部）・レントゲン検査（胃透視、注腸造影）・PTBD・血管造影等主要な検査を指導医のもとで研修し手技を習得する
(4) 標準的ながん化学療法の知識を習得し、実践できる
(5) 緩和ケアの技術を習得する
(6) 栄養サポートチーム（NST）へ参加し栄養管理の知識技術を習得する

04 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
AM7:30～		抄読会			
午前	外来 病棟回診 胃透視 上部内視鏡	手術 外来 病棟回診	外来 病棟回診	手術 外来 回診 胃透視 上部内視鏡	手術 外来 病棟回診
午後	下部内視鏡 超音波 注腸 各種検査 緩和外来 NST回診 緩和病棟回診	手術	下部内視鏡 超音波 注腸 各種検査 緩和外来	下部内視鏡 超音波 注腸 各種検査	手術
PM17:30～		カンファレンス			カンファレンス

(1) 外来：週１回、主に入院中受け持った患者の外来経過視察（化学療法を含む）を行う。
(2) 病棟：担当医として７～１０人程度の入院患者を受け持つ。指導医が主治医としてともに診療に当たる。定期的なカンファレンス、回診などで治療方針を決定する。
(3) 手術：後期研修医は基本的に受け持ちの患者の執刀をする。
(4) 救急・当直：月に３回程度当直業務を行う。緊急手術の際は、上級医を呼び手術する。
(5) カンファレンス：胃透視・注腸造影・マンモグラフィーの読影を放射線科医師・技師と行う。
１週前の手術症例の病理を検討し今後の治療方針を決定する。
１週後の手術のプレゼンテーションを行う。

05 研修期間中に経験する症例等について



初期臨床研修医及び専攻医は、入院患者を主治医である上級医とともに担当医として受け持ち、初期臨床研修医（1 年目）は手術症例の助手として、外科の手術手技の基本を学ぶ。また外科系の診療科を専攻希望の初期臨床研修医（2 年目）は、鼠径ヘルニアや腹腔鏡下胆嚢摘出術などの術者として、専攻医は、さらに胃癌・大腸癌に対する手術や緊急手術の術者として、外科の手術手技の習得を目指す。

基幹施設から受け入れている診療科

Japanese Red Cross Narita Hospital

Japanese Red Cross Narita Hospital

基本的技術・判断力・知識を身につけ エキスパートを養成

脳神経外科

脳卒中や頭部外傷などの緊急疾患への24時間対応に限らず、脳腫瘍や機能的神経疾患など多岐にわたる脳神経外科疾患を幅広くcoverし、地域の中核病院として大きな役割を担っています。脳卒中では特にクモ膜下出血の治療に力を注いでおり、脳動脈瘤の手術件数は県内でも有数です。脳神経内科と合同で虚血性脳血管障害の治療にあたり、急性期血栓回収療法、頚動脈ステント留置、外科的治療の必要な症例に対しては、頚動脈血栓内膜剥離術、頭蓋内外バイパス手術など数多く行っています。脳ドックによる検診では、未破裂脳動脈瘤や無症候性脳梗塞などの発見、治療に努めています。





副院長・第一脳神経外科部長兼脳卒中センター長

中村 道夫

日本脳神経外科学会専門医

01 研修期間

1〜2 年間

02 目 的

多彩な神経症状・精神症状を呈する疾患の中から脳神経外科的疾患を的確に鑑別するための基本的態度・判断力・技術・知識・手術手技を習得する。

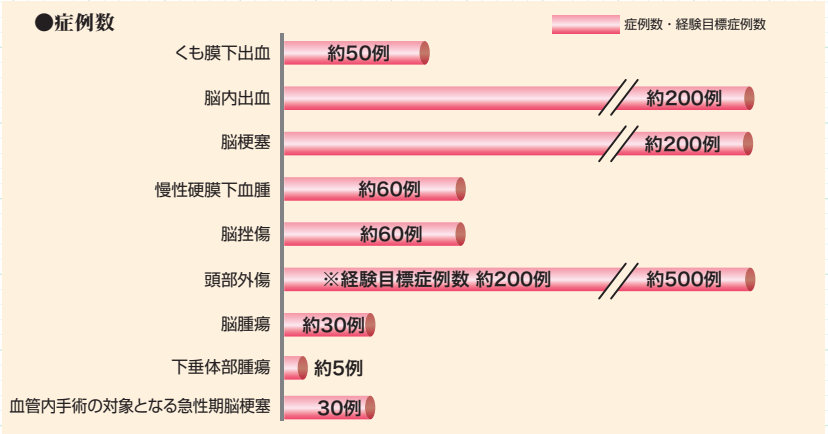
03 到達目標（目標、長期目標、一般目標、取得手技、コンセプト等）

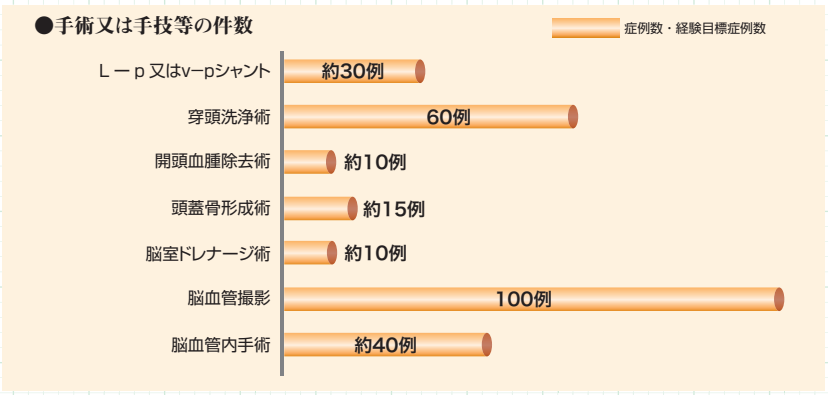
(1) 日本脳神経外科学会専門医の資格取得のための準備期間とする。
(2) 脳血管撮影の手技、外傷、水頭症の手術手技及び脳神経外科疾患全般の治療手技を習得する。
(3) 脳血管内治療の手技を習得する。

04 取得可能資格

学 会 名	取得可能資格	学会の研修施設等指定・認定状況
日本脳神経外科学会	脳神経外科専門医 （資格取得のための準備）	日本脳神経外科専門医訓練施設
日本脳神経血管内治療学会	日本脳神経血管内治療専門医 （資格取得のための準備）	
日本脳卒中の外科学会	脳卒中の外科技術認定医 （資格取得のための準備）	
日本脳卒中学会	日本脳卒中学会認定 脳卒中専門医	
日本神経内視鏡学会	神経内視鏡専門医	

05 1年間の研修期間中に経験する症例等について





脳動脈瘤クリッピング、脳腫瘍摘出などの major 手術及び血管内手術にも数多く関わっていただきます。

Japanese Red Cross Narita Hospital

整形外科的診断技術に精通した専門医を育成

整形外科

千葉大学整形外科をはじめとした近隣病院、診療所との連携を重視した急性期医療を行なっています。

外傷については、印旛山武医療圏の三次救急病院として多くの救急外傷患者を受け入れています。多発外傷などの多科にまたがる重度外傷も多く、各科と連携して治療にあたっています。

慢性疾患については、脊椎・脊髄外科、関節外科、手外科、スポーツ整形外科を中心に診療しています。

また、近年増加傾向にある大腿骨近位部骨折には早期から効率的なリハビリを行っていただけるよう地域連携パスを導入しています。

日本整形外科学会専門医制度研修施設に認定されており、将来整形外科専門医となる研修医を受け入れています。



整形外科統括部長

川口 佳邦

日本整形外科学会　整形外科専門医

01 研修期間

2年間

02 目的

●すべての整形外科疾患の救急診療、急性期診療、慢性期診療に適切に対応できる整形外科医を育成すること。

●将来、整形外科専門医の資格を得るのに必要な症例を経験すること。

03 到達目標（目標、長期目標、一般目標、取得手技、コンセプト等）

(1)日本整形外科学会認定整形外科医として、整形外科の研修を行なう。

(2)日本整形外科学会専門医の取得のための準備期間とする（専門医に必要な症例を経験し、専門医資格に足る知識・手技・判断力を身につける）。

(3)チーム医療を実践し、安全な質の高い医療を実践する。

(4)取得するべき手技

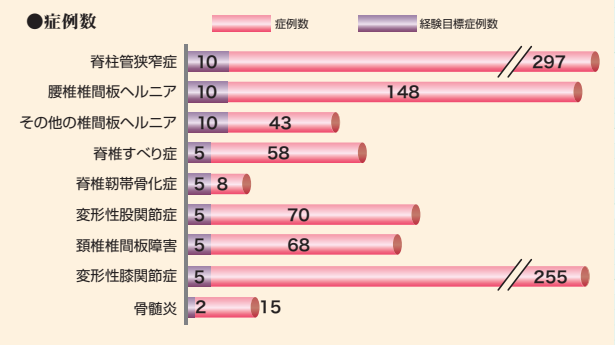
・整形外科の救急に必要な各種手技・骨折等に対する各種牽引法・整形外科の代表的検査手技

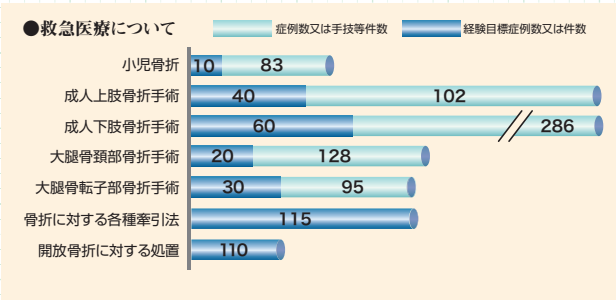
・整形外科の基本的手術手技

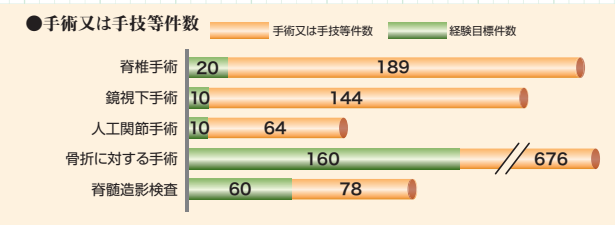
04 取得可能資格

学会名	取得可能資格	学会の研修施設等指定・認定状況
日本整形外科学会	日本整形外科学会専門医（取得準備期間）	日本整形外科学会専門医制度認定研修施設

05 研修期間中に経験する症例等について







心臓血管外科

循環器内科と連携して成人の心臓血管外科のほぼすべての疾患に対し、最新の治療を行っています。

地域の中核病院として、救急部と連携し、心臓血管外科の緊急疾患に対し緊急手術対応をしています。（急性大動脈解離、胸部・腹部大動脈瘤破裂、急性心筋梗塞合併症である左心室破裂、心室中隔穿孔、急性僧房弁閉鎖不全症など）

心臓血管外科専門医認定機構の認定した修練施設です。

冠動脈バイパス手術では合併症の少ない人工心肺を使用しない手術（オフポンプバイパス術）を基本術式としていますが、高度の低心機能例などには人工心肺使用下の心拍動下手術をおこなっています。

弁膜症手術では手術後の生活の質が向上する自己弁を温存した弁形成術を積極的に行っています。

心房細動を合併した心臓手術に際しては、積極的にメイズ手術（高周波焼灼デバイス使用）を行っています。

胸腹部大動脈瘤に対しては積極的に人工血管置換術を行っています。ハイリスク症例にはステントグラフト内挿術を行っています。



心臓血管外科部長
渡邊 裕之

外科専門医
心臓血管外科専門医
心臓血管外科修練指導医
厚生労働省医政局長認定臨床研修指導医

01 研修期間

2年間

02 目 的

●臨床医として必要な外科的基本手技の取得

●外科専門医取得に必要な心臓血管手術症例の経験

●心臓血管外科専門医の取得

03 研修システムの特徴

●成人の心臓血管外科疾患は、ほぼすべての症例が経験できます。

●動一静脈シャント、末梢血管手術など、初期研修医が術者となれる対象症例が年間約100件程度あります。

04 代表的な週間スケジュール（定期的に行なわれている検査を含む）

	月	火	水	木	金
午前	手術	ICU 病棟回診	手術	ICU 病棟回診	ICU 病棟回診
午後	手術	(外来診療)	手術	(外来診療)	(手術)
午後3:00～					症例検討

05 研修期間中に経験する病態

急性/慢性の心不全･呼吸不全、心原性/出血性ショック、心臓血管外科術後状態

06 研修期間中に経験する疾患･習得するべき手技

●虚血性心疾患、心臓弁膜症、各種不整脈、胸部･腹部大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症をふくむ下肢末梢血管疾患、下肢静脈瘤、慢性腎不全(動一静脈シャント)、心臓血管外科緊急疾患(急性冠症候群、急性大動脈解離、動脈瘤破裂等)

●血管露出、血管縫合･吻合、中心静脈カテ、スワンーガンツカテーテル挿入、心エコー、血管エコー検査、胸骨正中切開、肋間開胸、人工心肺装脱着、心･大血管手術の術後全身管理

Japanese Red Cross Narita Hospital

形成外科

当院は救命救急センターを要し、千葉県北総地域のみならず、茨城県南部も含めて救急患者の受け入れを行っています。その中で顔面多発外傷、手指外傷（切断指を含む）、重症熱傷の患者を多数受け入れています。また NICU を要し四肢、顔面の先天異常にも対応しています。また悪性腫瘍切除後の再建手術も多く、積極的にマイクロサージャリーを用いていることが特徴です。



形成外科副部長
石井 健太郎
形成外科副部長／
日本形成外科学会専門医

01 研修期間

1〜2 年間

02 目 的

形成外科専門医の資格を得るのに必要な症例を経験することを目標としている。

03 到達目標 (目標、長期目標、一般目標、取得手技、コンセプト等)

(1)皮膚皮下腫瘍の診断と治療
(2)手指の外傷の診断と治療（観血的整復固定、腱神経縫合、切断指再接着術）
(3)顔面骨骨折の診断と治療（頬骨、下顎骨などに対する観血的整復固定手術）
(4)広範囲熱傷の管理、処置、手術
(5)関節瘢痕拘縮、顔面瘢痕に対する形成術
(6)局所皮弁、有茎皮弁を用いた再建
(7)マイクロサージャリー手技を用いた再建
(8)乳房再建・頭頸部再建
(9)眼瞼下垂、内反症手術
(10)小児先天異常の診断と治療
(11)口唇裂、口蓋裂手術

04 取得可能資格

学 会 名	取得可能資格	学会の研修施設等指定・認定状況
日本形成外科学会	日本形成外科学会専門医	日本形成外科学会認定施設

05 代表的な週間スケジュール (定期的に行なわれている検査を含む)

	月	火	水	木	金
午前	8:50 外来手術 回診	8:50 外来手術	8:50 外来手術 回診	9:00 入院手術 回診	8:50 外来手術 回診
午後	13:30 外来	病棟総回診 手外科勉強会 術前カンファレンス	13:30 外来	入院手術	13:30 外来 リハビリカンファレンス

Japanese Red Cross Narita Hospital

呼吸器外科

成田赤十字病院呼吸器外科は、肺癌を中心とした胸部悪性疾患の他、自然気胸、続発性気胸、膿胸、胸部外傷など多岐にわたる呼吸器外科疾患に対応しています。また千葉大学医学部附属病院　成田赤十字病院肺がん治療センターとして、千葉大学附属病院呼吸器外科とも密接な関連を続けながら肺癌の正確な診断と治療を目指しています。

印旛、山武、香取医療圏の他、海匝、茨城県鹿行地域、更には千葉市、千葉県東葛地域、東京都からの紹介もあります。

細胞診専門医、病理専門医、細胞診検査士による正確かつ迅速な肺癌細胞診診断体系を構築しています。気管支鏡内視鏡室に顕微鏡を配置、迅速細胞診Ｒａｐｉｄ　ｏｎ-ｓｉｔｅ　cytologyにて数分で診断がされます。

呼吸器の手術としては、体にやさしい手術と肺機能温存の手術を目指しています。低侵襲手術としての完全胸腔鏡下手術あるいはＨｙｂｒｉｄ胸腔鏡下手術（切開創6−１０ｃｍ）を行っています。また心臓疾患、腎臓疾患、糖尿病、脳疾患、低肺機能など合併症を伴った手術も多くこれらは各診療科のバックアップの下、高度な医療を行っています。



院長補佐・第一呼吸器外科
部長

澁谷　潔

日本外科学会：指導医、専門医、認定医
日本呼吸器外科学会：指導医、専門医
日本呼吸器内視鏡学会：気管支鏡指導医、気管支鏡専門医
日本臨床細胞学会：細胞診専門医
厚生労働省医政局認定臨床研修指導医
千葉大学特任教授　千葉大学医学部附属病院（成田赤十字病院肺がん治療センター）

01 研修期間

1年以上

02 目的

呼吸器外科専門医の育成

03 研修システムの特徴

(外科専門医に続く呼吸器外科専門医を目指します。その他日本呼吸器内視鏡学会:気管支鏡専門医、日本臨床細胞学会:細胞診専門医も取得可能です。
日本呼吸器外科学会、呼吸器外科専門医合同委員会　認定修練施設(関連)
日本呼吸内視鏡学会　気管支鏡認定施設　の認定を得ています。

04 指導体制の概要

(1)　代表的な週間スケジュール(定期的に行なわれている検査を含む)

	月	火	水	木	金
午前	朝回診 外来 病棟	朝回診 手術	朝回診 外来 病棟	朝回診 手術	朝回診 外来 病棟
午後	夕回診	手術 夕回診	気管支鏡 夕回診	手術 夕回診	気管支鏡 夕回診
午後4:00～				肺癌カン ファレンス	

火曜日、木曜日の定時手術　　水曜日、金曜日の気管支鏡検査
朝夕2度の病棟回診　　水曜日午後の血液腫瘍内科医との肺癌カンファレンス

(2)　経験する手術
肺葉切除術または肺区域切除術+リンパ節郭清術(44例)
肺楔状切除術(14例)
縦隔腫瘍摘出術(3例)
自然気胸手術または肺嚢胞切除術(24例)
膿胸(9件)
その他(9例)
合計(104例)

(3)　その他の研修目標
各種学会出席と臨床経験、臨床研究の発表をしています。
日本呼吸器外科学会、日本肺癌学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本臨床細胞学会
世界肺がん学会、世界気管支学会、アジア太平洋呼吸器内視鏡学会など

Japanese Red Cross Narita Hospital

眼科

成田赤十字病院では、白内障を中心に緑内障、糖尿病網膜症、ぶどう膜炎、加齢黄斑変性症、網膜静脈閉塞症などほぼすべての眼科疾患の診断と治療を行っています。手術に関しては白内障は年間700件以上を行い、そのほかに硝子体手術も行っています。また、当院にはNICUもあるため未熟児網膜症の診療や治療も行っています。



眼科副部長
柿栖　将人
日本眼科学会認定眼科専門医

01 研修期間

1～2年

02 目 的

眼科専門医の資格を得るのに必要な症例を経験すること

03 研修システムの特徴

初期研修医:多岐にわたる眼科疾患の特徴をつかむため外来診療、病棟業務を中心とした研修を積みます。
後期研修医:千葉大学眼科の後期研修プログラムの一環として、当科で1～2年間手術を中心とした研修を積みます。4年間の後期研修を終えると眼科専門医試験の受験資格が得られます。

04 到達目標(後期研修医)

・白内障手術(年間100件以上)
・緑内障の診断と治療(レーザー治療まで)
・糖尿病網膜症の診断と治療、糖尿病患者の教育
・加齢性黄斑変性症の診断と治療
・網膜静脈閉塞症の診断と治療
・蛍光眼底造影検査の読影と治療方針の決定
・糖尿病網膜症、加齢性黄斑変性症、網膜静脈閉塞症に対する硝子体注射の施行
・未熟児網膜症の病状把握

05 取得可能資格

眼科専門医（後期研修医として4年）

06 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来	手術	朝回診 手術	朝回診 外来	外来
午後	外来	手術	手術	外来	外来 未熟児診療、 カンファレンス

患者さまひとりひとりの状況にあわせた治療を目指し、専門技術を習得

泌尿器科

千葉県北総地区の基幹病院として尿路性器悪性腫瘍（腎がん、腎盂尿管がん、膀胱がん、前立腺がん、精巣がん）、排尿障害の原因となる前立腺肥大症や神経因性膀胱、尿路結石症、尿路感染症、先天異常、夜尿症、尿失禁、勃起不全症、男子不妊症、女性泌尿器疾患（骨盤臓器脱、尿失禁）の全てに対応した診察を行ってます。

尿路変更手術を行った患者さまに対するアフターケアーとしてストーマ外来も行ってます。

エビデンスに基いているとともに、患者さまひとりひとりの状況に合わせた治療を目指しています。前立腺がんに対する HIFU療法、腎がん、腎盂尿管がん、副腎腫瘍に対する鏡視下手術や、膀胱脱、骨盤臓器脱に対する TVM手術など最先端の治療も取り入れています。ただ単に病気を治すだけでなく患者さま自身にも満足していただける治療を行うよう努力してます。







第一泌尿器科部長
大木 健正
日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本がん治療認定医機構暫定教育医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医
厚生労働省医政局長認定臨床研修指導医

01 研修期間

4年間

02 目的

泌尿器科専門医を取得する。

03 到達目標 (目標、長期目標、一般目標、取得手技、コンセプト等)

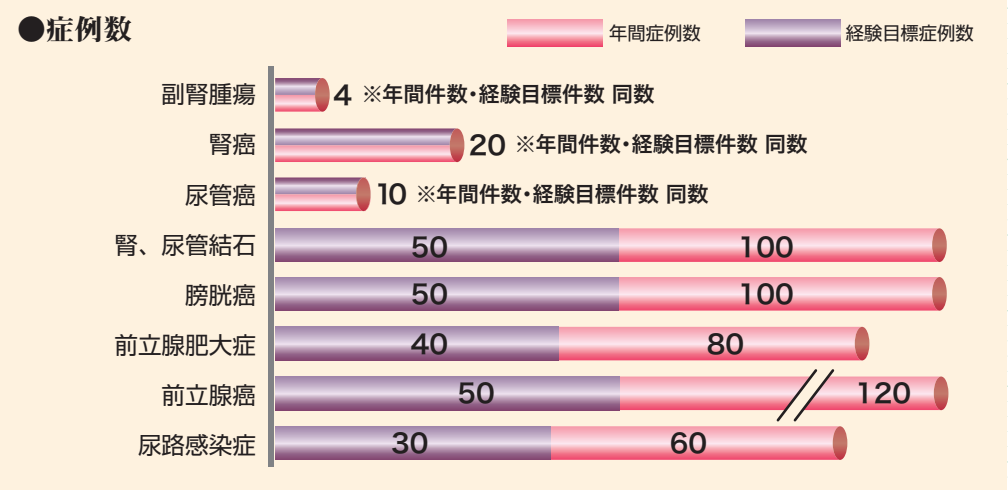
(1)外来診療、入院診療を通して、泌尿器科全般の知識や技術を身につける。

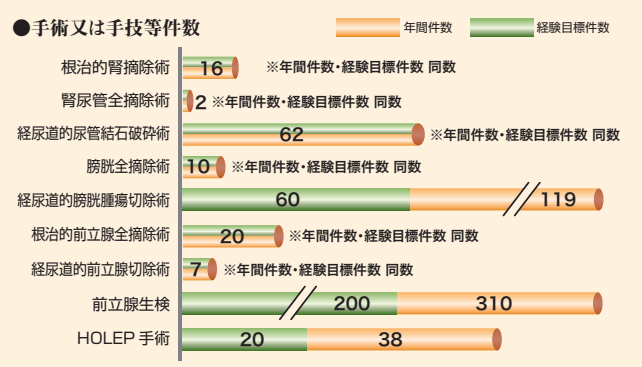
(2)腎不全に対する透析療法の知識や技術を身につける。

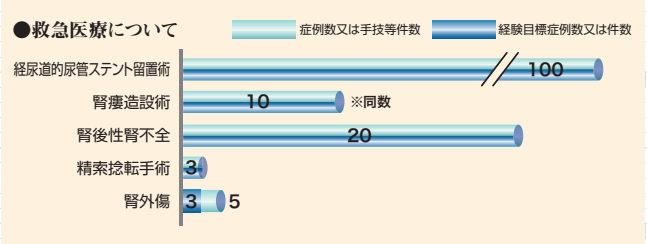
04 取得可能資格

学会名	取得可能資格	学会の研修施設等指定・認定状況
日本泌尿器科学会	泌尿器科専門医	泌尿器科専門医基幹教育病院

05 研修期間中に経験する症例等について







耳鼻咽喉科領域疾患全般に対応し
東総地域・茨城県南部から
外房方面まで広範囲でカバー

耳鼻咽喉科

成田赤十字病院耳鼻咽喉科は小児から高齢者までの耳鼻咽喉科領域疾患全般に対応し、手術数も年間300～400例（中耳手術50例以上を含む）と豊富な実績があります。

千葉県内では耳鼻咽喉科の入院・手術を行う病院が減少しているため、当科は東総地域・茨城県南部から外房方面までのかなり広い範囲をカバーしているのが現状です。そのため外来診療は完全紹介制とさせていただき、緊急入院や手術が必要な症例、悪性疾患（癌）を中心に診療しています。加えて当院は3次救急救命センターを有し地域の救急医療の要であるため、耳鼻咽喉科も重症感染症・外傷・異物・突発性難聴・顔面神経麻痺など緊急入院数が多いのも特色のひとつです。輸血を必要とするような重篤な鼻出血も年に数例経験しています。

非常に多忙な勤務状況ですが、毎年全国学会を含め年に数回の学会発表を続けています。学会の動向や新しい治療法などをチェックすることは当然ですが、最新の情報を発信することにより自分たちの診療レベルを客観的に検証する姿勢を保てると考えているからです。



第一耳鼻咽喉科部長
根本 俊光
日本耳鼻咽喉科学会認定専門医
日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医

01 研修期間

一年単位。専門医取得まで３年程度まで延長可。

02 目 的

（1）日本耳鼻咽喉科学会認定専門医取得に向けた研修に沿う(2017年改定プログラムに対応)

・がん治療認定医(日本がん治療認定医機構)・内分泌外科専門医(日本内分泌外科学会)

上記取得に向けた研修も同時に行える。（頭頸部がん専門医 準認定施設、甲状腺外科専門医研修関連施設）

03 研修システムの特徴

2年以上の研修期間の場合、近隣の医療機関と連携して一定期間出向し、より専門性が高く、ムラのない研修を計画することも出来る。

04 代表的な週間スケジュール（定期的に行なわれている検査を含む）

	月	火	水	木	金
午前	外来	外来	手術	外来	病棟 手術
午後	検査 手術	検査	手術	検査	手術
PM3時から		細胞診	病棟カンファ	細胞診	

05 研修期間中に経験する病態、疾患

一般的な症例から悪性腫瘍、救急疾患(気道閉塞･扁桃周囲膿瘍･鼻出血など)まで幅広く経験する。外来は完全紹介制をとっている。

06 研修期間中に経験する疾患

一年間で50～70例の中耳手術をはじめ、悪性腫瘍の遊離再建まで約300～400件の手術を常勤医4名で行っている。また頭頸部がん対する分子標的薬治療、甲状腺分化癌に対する外来アブレーションなど積極的に施行している。

07 研修期間中に習得するべき手技

一般的手技から手術、緊急対応まで、日本耳鼻咽喉科学会の定める項目を網羅する。

08 研修修了後の進路について

●専門医取得以前であれば、本人が選択した次研修病院へ行くことが可能。

●当院在籍中に専門医を取得した場合、引き続き当院の常勤医として臨床に携わることも出来る。

●学術的研究や海外留学に興味があれば、千葉大学大学院への入学等について相談に応じる。

産婦人科

千葉県北総地域の基幹病院であり、また千葉大学研修プログラムの関連施設として当科では様々な産科婦人科疾患を数多く経験することができます。産婦人科は、【周産期領域】、【婦人科腫瘍領域】、【生殖内分泌領域】、【女性のヘルスケア領域】の4領域からなり、そのうち【周産期医療】および【婦人科腫瘍領域】が当院の2本柱となっております。それぞれの分野について当院の特色を説明します。

【周産期医療】

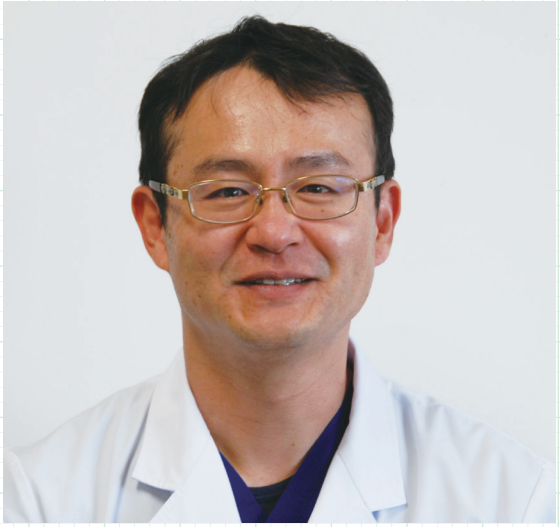
平成24年度に地域周産期センターの認定を受けました。NICUを併設しており、成田市を含む印旛および隣接医療圏における周産期医療の中核をなしております。分娩数は、出生数の減少に伴い当院でも減少傾向ですが昨年（令和7年）は355件となっております。母体搬送は昨年（令和7年）は83件の受入れとなっております。早産受け入れは妊娠24週以降（NICUの受け入れ体制により週数が変更されることあり）です。母体合併症や産科合併症のあるハイリスク症例が多いため、帝王切開症例が多くなっております（R7年　191件、53.8%）。研修では、産科超音波検査、分娩介助、帝王切開の助手などをしていただきます。また産婦人科志望の研修医は到達度により帝王切開の執刀も行います。

【婦人科腫瘍領域】

子宮筋腫などの良性疾患から子宮ガン、卵巣ガンなどの悪性疾患まで様々な疾患の治療を行っております。婦人科手術は毎年350件前後（令和7年336件）です。婦人科悪性腫瘍手術は、毎年50件前後（令和7年45件）です。良性疾患に関しては、年々、開腹手術から腹腔鏡手術の割合が増加しております（令和7年　良性開腹手術　91件、腹腔鏡手術　168件、子宮鏡手術　12件）。また、令和3年より、ロボット支援手術も開始しました（令和7年 14件）。手術に関しては、積極的に助手として携わっていただき、基本的な手術手技を学ぶことができます。また、手術患者を主治医とともに受け持つことで周術期管理を学んでいただきます。

【生殖内分泌領域】、【女性のヘルスケア領域】

月経不順、月経困難症や更年期障害などの婦人科疾患を主に外来診療に携わることで学ぶことが出来ます。



第一産婦人科部長
小幡 新太郎
日本産婦人科学会専門医、日本産婦人科学会指導医
日本産科　婦人科内視鏡学会技術認定医
母体保護法指定医、NCPR（新生児蘇生法）
周産期新生児医学会指導医、専門医（母体・胎児）
厚生労働省医政局長認定臨床研修指導医

01 研修期間

1年以上、応相談

02 目 的

(1)日本産婦人科学会専門医取得に必要な症例を経験する。
(2)外来診療、入院診療、救急症例、手術を通して、産婦人科診療に必要な知識や技術を身につける。

03 研修システムの特徴

(1)外来を指導医のもとで担当し、外来診療の経験を通して基本的な知識、診断、治療を身に着けることができます。
(2)手術にも積極的に入ることで、基本的な手術手技と婦人科解剖を習得できます。
(3)救急の初期対応を数多く経験することができます。
(4)産婦人科研修終了時には、経験症例の発表と研修中に出された課題についてそれぞれ発表していただきます。

04 取得可能資格

学 会 名	取得可能資格	学会の研修施設等指定・認定状況
日本産婦人科学会	産婦人科専門医	日本産婦人科学会専門医制度 専攻医指導施設
日本周産期・新生児学会	周産期専門医 (母体・胎児)	周産期専門医(母体・胎児)認定施設
日本婦人科腫瘍学会	婦人科腫瘍専門医	婦人科腫瘍指定修練施設
日本産婦人科内視鏡学会	腹腔鏡技術認定医	日本産婦人科内視鏡学会認定研修施設
日本女性医学学会	女性ヘルスケア専門医	日本女性医学会認定研修施設

05 研修期間中に経験する病態・疾患・習得するべき手技

●産科症例(妊娠高血圧腎症、常位胎盤早期剥離、前置胎盤、子宮内胎児発育制限、糖尿病合併妊娠などの合併症妊娠など)
●婦人科症例(子宮筋腫、卵巣嚢腫などの良性疾患、子宮ガン、卵巣ガンなどの悪性疾患、月経不順、不妊症などの内分泌疾患など)
●手術(帝王切開、流産手術などの産科手術や子宮摘出、卵巣摘出などの婦人科手術)
●分娩(分娩介助、胎児心拍モニタリングなど)

Japanese Red Cross Narita Hospital

麻酔科

常勤スタッフは麻酔科学会指導医4名です。

年間約3600例の麻酔科管理手術症例があります。地域の基幹病院として麻酔科医の研修に必要な殆どの症例が経験できます。

救命救急センターと集中治療室は救急部が中心となって運営されており、重症外傷や解離性大動脈瘤、脳神経外科の緊急手術症例を経験することができます。

周産期母子医療センターであることから年間200例前後の帝王切開を麻酔科管理で行っています。無痛分娩にも対応しています。

透析センターや精神科があるため、他施設で対応できない腎不全症例や精神疾患を有する患者さんの麻酔も行っています。

全身麻酔と神経ブロックの併用も積極的に行っています。

心臓血管外科がありJB-POT受験のための症例を経験できます。

週3回麻酔術前外来を行い、周術期管理の向上にも努めています。



第一麻酔科部長
木島 正人
麻酔科標榜医
日本麻酔科学会指導医
日本専門医機構認定麻酔科専門医

01 研修期間

1年以上、応相談

02 目 的

当院は地域中核病院として3次救急病院として、重篤な合併症を持つ患者・危機的状況の患者を受け入れて、手術が行われています。合併症や出血・敗血症などに対処して、全身管理を行う技術と知識を身につけ、能力の高い麻酔科医をめざします。

03 研修システムの特徴

CAN（Chiba Anesthesiologists Network）システムで、千葉大学麻酔科関連病院を経験し、幅広い研修が行えます。

04 代表的な週間スケジュール（定期的に行なわれている検査を含む）

	月	火	水	木	金
午前8:40～	ICUミーティング 症例検討	ICUミーティング 症例検討	ICUミーティング 症例検討	ICUミーティング 症例検討	ICUミーティング 症例検討
午前9:00～	手術麻酔 術前・術後回診	手術麻酔 術前・術後回診	手術麻酔 術前・術後回診	手術麻酔 術前・術後回診	手術麻酔 術前・術後回診
午後5:00	↓	↓	↓	↓	↓

05 研修期間中に経験する病態・疾患・習得するべき手技

年間麻酔科管理症例約3600例　緊急手術550件

糖尿病・虚血性心疾患・腎不全患者の周術期管理・合併症を伴う産科麻酔・下部消化管穿孔等、敗血性ショック患者の麻酔

気道確保、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔、エコーガイト下ブロック、中心静脈カテーテル挿入、経食道心エコー

06 取得可能資格

学 会 名	取得可能資格	学会の研修施設等指定・認定状況
日本麻酔科学会	麻酔科専門医	日本麻酔科学会研修指定病院
日本心臓血管麻酔学会	心臓血管麻酔専門医	日本心臓血管麻酔学会専門医認定施設

Japanese Red Cross Narita Hospital

救急・集中治療科

プライマリーケアからクリティカルケアまで

われわれは、生命の危機に瀕した患者さまを救命することに全力を尽くしています。

救急車で来院される患者さまの初期診療、すなわちプライマリーケアを行うとともに、多発外傷、心停止、中毒、多臓器不全などの重症病態や、複数の診療科にまたがる複雑な病態の患者さまに対する治療、すなわちクリティカルケアを行っています。

もちろん、救急診療はわれわれだけで行えるものではありません。各診療科の専門医と、救急外来、救命センター、ICU病棟の看護師をはじめとするコメディカルスタッフに支えられて、地域の救急医療における最後の砦としての責任を果たすべく、日夜診療に取り組んでいます。

また、日赤救護班、DMATの一員として東日本大震災、熊本地震など大規模災害に出動しています。



救急・集中治療科部長
齋藤 大輝
日本救急医学会認定救急専門医
日本集中治療医学会専門医
麻酔科標榜医

01 研修期間

2年間（集中治療専門医）

02 目的

当院は救命救急センターとして、地域の中核病院として、約7000件の救急搬送症例を含め年間2〜3万人の救急患者を受け入れている。これらの症例は、内因性、外因性を問わず、また軽症〜最重症までさまざまであり、感冒、打撲から心肺停止寸前まで多種多様な病態に対応する必要がある。また当科はICUの管理も行っており、救急外来から救急病棟、ICUまで連続的な診療を行っている。この二点が当科の特徴であると考えている。したがって当科での後期臨床研修の目標は、あらゆる救急症例に対して適切に対応できるように、さらに重症患者に対しては、時機を逸せずICUに収容し適切な集中治療を行えるような訓練を積むことである。また救急集中治療領域では、各科の専門医と医療チームを組む場合が多いが、そのチームの中心となれるような人間性も必要とされ、単なるspecialistというだけではなく優れたgeneralistとなることも重要な目標と考えている。

（1）あらゆる救急疾患に適切に対応でき、さらに集中治療を要する症例に対して緻密な全身管理ができる救急医、集中治療医を育成すること

（2）将来、下記資格を取得するのに必要な症例を経験すること
・救急科専門医 ・集中治療科専門医

03 研修システムの特徴

(1) 全病床数655 床のうち救急病床22床、ICU 8床を有する地域の基幹病院であり、あらゆる分野の救急診療を経験できる。
(2) 救急外来では1次から3次まですべての疾患を24時間365日受け入れており、多種多様な救急診療を経験できる。
(3) ICU では年間約500例の重症患者を収容し、人工補助療法を駆使し多臓器不全など種々のcritical care を経験できる。
(4) 千葉大学医学部附属病院救急科専門研修プログラム、連携施設、集中治療科専門研修施設である。
(5)相談の上、2年目に院内他科(整形外科、呼吸器外科、小児科など)の研修、もしくは、千葉大学医学部救急科・集中治療部の研修が可能である。
(6) 日本赤十字社独自と活動として、災害における救護活動があり、実際に災害現場に出動し救護活動を体験できる。

04 代表的な週間スケジュール （定期的に行なわれている検査を含む）

	月	火	水	木	金
午前	8:10 カンファレンス 回診 救急診療・ ICU 管理	8:10 カンファレンス 回診 救急診療・ ICU 管理	8:10 カンファレンス 回診 救急診療・ ICU 管理	8:10 カンファレンス 回診 救急診療・ ICU 管理	8:10 カンファレンス 回診 救急診療・ ICU 管理
午後	救急診療・ ICU 管理	救急診療・ ICU 管理	救急診療・ ICU 管理	救急診療・ ICU 管理	救急診療・ ICU 管理
16:15から	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス

※当科はシフト制で勤務が組まれており、これ以外に夜勤等あり。

05 研修期間中に経験する病態・傷病・習得するべき手技

●多発外傷、心停止、環境障害(熱中症、低体温)、急性薬物中毒、重症熱傷などすべての救急疾患、および多臓器不全、各種ショック、重症急性膵炎、などのcritical careを要する病態。
●救急診療および集中治療に必要なすべての手技。
気管挿管、気管切開、人工呼吸管理、循環管理、ECMO、MCS、中心静脈カテーテル留置、栄養法(経静脈栄養、経腸栄養)、胸腔穿刺、 急性血液浄化法など

Japanese Red Cross Narita Hospital

放射線科

放射線を使った検査、治療を行っています。主な装置として X線 CT（MDCT）3台、MRI装置2台（1.5テスラ）、ガンマカメラ1台、血管造影装置2台、放射線治療装置1台、PACS（医用画像管理システム）を有しています。64列 MDCTの導入により心臓冠動脈3DCT検査や脳血管の3DCT検査が容易になり血管系の診断に役立っています。また、多目的 X線テレビ装置の導入に伴い、精度の高い検査が可能になりました。院内だけではなく、近隣の開業医や病院から、CT、MRI、RI検査の依頼を受けており、放射線科医のレポートを依頼先に送付しています。放射線治療に関しても、治療計画専用の CTを導入することにより精度の高い治療を当院の症例だけでなく他施設からの紹介患者さまにも多数おこなっています。

また、当院は第3次救急救命センター、災害拠点病院、特定感染症指定病院として地域の役割を担っており、幅広い豊富な症例を経験することができます。



第一放射線科部長
東出高至
日本医学放射線学会専門医・日本インターベンショナル学会専門医

01 研修期間

2年以上

02 目的

放射線診断、放射線治療、核医学を学び、日本医学放射線学会専門医を目指す。

03 各科研修システムの特徴

救急から癌治療まで、幅広い豊富な症例を経験できる。千葉大学医学部附属病院放射線科と交流している。臨床各科との連携が密であり、血管造影や生検などのIVR手技も習熟できる。

04 代表的な週間スケジュール

（定期的に行なわれている検査を含む）

	月	火	水	木	金
午前	放射線治療	読影	読影	核医学検査	読影
午後	ダイナミックCT	CT生検、ダイナミックMRI	血管造影	胸部X-Pなどの読影	読影

05 研修期間中に経験する症例等について

救急から癌診療まで、小児から老人に至る病態、疾患。

06 研修期間中に習得するべき手技

CT、MRI、核医学、血管造影や生検などのIVR手技の手技と読影能力をマスターする。
放射線治療の基礎を学ぶ。

感染症科

●募集対象者

医師免許取得後2年間の臨床研修を終了し、内科認定医相当の経験と実力を有する者（内科研修が十分でない場合には、個別の事情に合わせた対応を相談可）

●研修方法

①感染症病床への入院患者の担当医として、また週に1回以上の外来診療を通じて、感染症診療に携わり、併行してコンサルテーション業務を行う。

②感染制御チーム（ICT）の一員として、院内の感染症サーベイランス業務、院内での感染予防策の実行・改善に協力する。

③微生物検査室において、微生物検査の基礎的知識、手技について理解、習得する。

④ジャーナルクラブで英文論文を要約、議論し、批判的吟味と臨床応用の仕方を身につける。

⑤院内の感染症レクチャーで自ら講義を行い、研修医を含めた医療スタッフに対する効果的な教育方法を学ぶ。

⑥保健所、検疫所との合同訓練に参加することで、特殊な輸入感染症への対応方法を身につける。

⑦院外の研修コースを受講することにより、当院の日常業務で経験できない症例や事例への対応能力を身につける。国内外の専門施設で結核、熱帯医学、病院疫学等の研修を受ける機会を提供する。ニーズに応じて、最大2か月程度の院外研修期間を設ける。

⑧リサーチメンターと臨床研究テーマを設定し、定期的にリサーチミーティングを行う。テーマ別に適切な学会を選択し、積極的に発表する。また適切なピアレビュー誌を選択して投稿し、査読の過程を通して論理的思考力を身につける。



感染症科部長
馳　亮太
日本感染症学会感染症専門医

01 研修期間

研修期間は 3 年間を原則とする。他施設で専門研修を実施している場合には、各自の研修歴を考慮して、個別に適切な研修期間を設定する。

02 目的

感染症専門医として必要な感染症診療の基本的な考え方、臓器横断的な感染症診療を行う為の幅広い感染症の知識、問題解決力、教育力、リサーチ力を習得し，将来自立して感染症科を立ち上げリーダーとして組織を運営できる人材を育成する。

研修終了後は、受験資格が整った段階で、感染症専門医研修中の臨床経験をもとに、日本感染症学会専門医認定試験を受験する。研修期間中に、全ての受験資格を満たすことを目標とする。

03 各科研修システムの特徴

当院は多数の専門診療科を有する急性期病院であり、各科からのコンサルテーションおよび微生物検査結果のモニタリングに基づいた併診業務を通して、様々な感染症疾患を経験することができる。また成田国際空港に近接していることから、輸入感染症症例も豊富である。更に、当院は特定感染症 / 第一種感染症指定医療機関であるため、感染症法で定められた特別な感染症が疑われる患者の診療を経験することも可能である。

2016 年 3 月より、亀田総合病院感染症科と連携の下、日本感染症学会の連携研修施設として認定され、2018 年 5 月からは単独の認定研修施設として認定されている。3 年間の専門研修を行うことで、感染症学会専門医の受験資格取得に必要な研修期間を満たすことができる。

04 研修スケジュール

毎日	午後 2 時～	症例カンファレンス（約 1.5 時間）
週 1 回	午後 1 時半～	ICT ミーティング、病棟ラウンド（約 1.5 時間）
週 1 回以上	午前 9 時～ 午後 2 時～	感染症外来 (HIV 診療、渡航外来診療を含む)
週 1 回	時間不定期	内科との合同勉強会 (約 1 時間)

05 代表的な週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	外来診療
午後	症例カンファレンス	症例カンファレンス 内科との合同勉強会	症例カンファレンス 微生物検査室との合同カンファレンス	症例カンファレンス ICTミーティング、病棟ラウンド	症例カンファレンス

病理部

研修システムの特徴

病理学は“生体情報の取得学”と言っても過言ではない。そのために細胞 / 組織 / 個体の普遍的な解析ツールを自得する事に尽きる。その修学の程度により学会発表や病理専門医習得コースに進むことが可能。術材鏡検や切り出しが毎日可能であるが初期研修一環としての1ヶ月では内視鏡や放射線あるいは臨床検査等と組み合わせて半日、週数回がスケジュールのひとつの目安である。解剖の機会に遭遇すれば時間を問わず積極的に参加する。





CPC の様子

病理部長
河上 牧夫
日本病理学会病理専門医
死体解剖資格

成田赤十字病院としての特色

救急医療

病院の特徴❶

様々な疾患や病態を多く経験



32診療科、655病床を有する地域の基幹病院であり、あらゆる急性期疾患、慢性期疾患診療を行っています。



病院の特徴❷

救急患者:年間約2万人（1日約55人）

地域の救急医療の拠点となり、救命救急センターの第三次救急指定病院として、重篤救急患者の受入れを24時間365日行っています。





病院の特徴❸

成田国際空港に隣接しているため、外国人を含めた様々な疾患を経験

修学旅行帰り集団食中毒患者受入状況

機内で食中毒を発症した高校生のうち29名の受け入れを行いました。





特定感染症病床患者受入訓練





災害救護

赤十字の本旨である災害医療に関する見聞を深め、救護訓練にも参加し、実際の災害救護に関しては可能な限り参加する。

「令和元年房総半島台風」救護活動状況

①派遣期間…… 令和元年9月13日～19日
②派遣救護班…… 2個班（医師5名、初期研修医2名、看護師6名、薬剤師2名、事務4名）
③活動内容…… 館山市・鋸南町のアセスメントと、避難所・難病患者宅等の巡回診療を行った。




「北海道胆振東部地震災害」救護活動

①派遣期間…… 平成 30 年 9 月 10 日～ 12 日
②派遣救護班 …… 1 個班（医師 1 名、初期研修医 1 名、看護師 3 名、薬剤師 1 名、事務 2 名）
③活動内容 …… 安平・追分地区の避難所の巡回診療を行った。




「熊本地震災害」救護活動状況

①派遣期間…… 平成 28 年 4 月 19 日～ 5 月 25 日
②派遣救護班 …… 2 個班（医師 2 名、初期研修医 2 名、看護師 6 名、薬剤師 2 名、事務 8 名）
③病院支援要員 …… 看護師 3 名、事務 1 名
④熊本県支部災害対策本部要員 … 医師 1 名
⑤こころのケア活動要員 ……医師 1 名、連絡調整員 1 名
⑥活動内容 …… 熊本市、阿蘇市、南阿蘇村などで救護活動を展開した。



「令和6年能登半島地震」救護活動状況

①派遣期間……令和6年1月8日～3月15日
②派遣救護班……3個班（医師3名、初期研修医3名 看護師9名 薬剤師3名 事務9名）
③日赤災害医療コーディネートチーム…医師2名 事務2名
④こころのケアチーム ……看護師2名 事務1名
⑤こころのケア調整班……医師1名
⑥被災医療機関支援 ……看護師1名
⑦活動内容……【救護班】珠洲市内（巡回診療・拠点救護所活動）
【こころのケアチーム】七尾市役所（支援者支援）

「台風18号大雨災害」救護活動状況

①派遣期間……平成 27 年 9 月 11 日 ～ 13 日
②派遣救護班……救護班 1 個班 (医師 1 名、看護師 3 名、薬剤師 1 名、管理要員 2 名) 及び日赤 災害医療コーディネーター (医師)1 名を茨城県古河市にある古河赤十字病院に派遣
③活動内容……茨城県常総市にある避難所3カ所で巡回診療を行う

救護訓練の様子

救護訓練が年 8 回開催され、2年次研修医も参加







※救護班とは、医師1名、研修医1名、看護師長1名、看護師2名、薬剤師1名、主事(事務)3名の9名による医療救護チームのことです。

国際救援

外国人旅行者の医療に関わることで将来国際救援に参加する場合にも有用な文化体験ができる。また輸入感染症の診療を通して海外の医療事情を知る機会となる。　希望により日本赤十字社主催の国際救援に関わる講演会・研修会等に参加可能である。




勉強会・研修会の様子

当院では、臨床研修医のため、研修開始時にオリエンテーションやコメディカル研修を実施することで、病院全体の流れやチーム医療の重要性を認識し、医師としての業務・役割について理解できるようにしています。

また、1年次臨床研修医のために毎月勉強会や不定期に研修会を開催し、基本的な知識・診療能力の確認を行う機会を設けています。その他、2年次臨床研修医も含めて院内で開催されるCPCや研究発表会、学術集団会等への参加を義務付けています。

ICLSコース（医療従事者のための蘇生トレーニング）

病棟における急変時の実践的な対応を学びます。各学会認定医等の受験資格でもあります。





勉強会　研修に必要な基本的な知識・技術を毎月テーマを変えて勉強します。












初期研修医院内発表会　2年次初期臨床研修医による症例発表会







最優秀賞

予防接種

職員へのインフルエンザワクチン接種



研修医による勉強会

初期研修医が中心となり、上級医とともに週に 1～2 回、研修室にて開催。毎回さまざまなテーマで行われています。



専攻医からのメッセージ

小出　倫太郎 先生

小児科専攻医
千葉大学卒

こんにちは！小児科専攻医の小出倫太郎です。

私は千葉大学を卒業後、成田赤十字病院 小児科コースでの初期研修を経て、そのまま小児科専攻医プログラムへ進みました。

もともと主体的に学ぶのが好きな性格で、専攻医主導で診療にあたることができる当院の研修スタイルに惹かれ、当院を希望しました。

当院小児科の一番の特徴は、専攻医1年目の2か月目から1人で当直をするところだと考えています。最初の1か月はウォーミングアップとして指導医の先生と一緒に当直をし、2か月目から1人当直がスタートします。

もちろん緊急時に連絡できる待機の先生はついてくれていますが、基本は1人で診療を行わなければいけません。ですので、「こういう患者さんが来たらこう対応をしよう。」というシミュレーションを本気でやるようになります。そういったリアルな危機感を持ちながら研修に取り組めるところが、当院での小児科研修の一番の良さだと感じています。

症例のバリュエーションとしては、専門医の多い血液腫瘍が強みです。地域の中核病院として、その他にも様々な疾患の対応を学ぶことができます。

NICUにも年間300人以上の新生児が入院しており、多様な症例を経験することができました。超低出生体重児の出生も1ヶ月に1～2人のペースであります。スタッフ全員が赤ちゃんと家族にとって何ができるかを一番に考えている、とても素敵な場所でした。

3年間の研修期間のうち、1年間は外部の関連病院で研修を行うことができます。

私は専攻医2年目で千葉大学医学部附属病院と下志津病院でお世話になる予定で、それぞれの病院で幅広い視野を獲得できたらと考えています。

少しでも興味を持っていただけたら、是非一度見学にいらしてください。お待ちしております ！

田中　秀弥 先生

精神科専攻医
帝京大学卒

精神科専攻医の田中です。

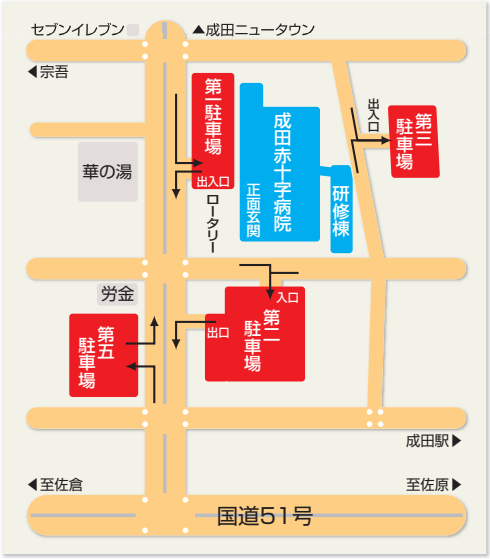
埼玉県川口市で産声をあげ、なぜか横浜市の母子手帳に幼少期の伝記を記載されています。田畑に囲まれた自然豊かな地、静岡県は焼津市で、オタマジャクシをすくいながらのびのびと成長し、T京大学医学部に進学しました。赤羽や池袋でよく遊び、友人に恵まれていた為、無事に大学を卒業しました。卒業後、中学生の時から精神科診療の夢があり、国府台病院で初期研修を行いました。同病院の先輩にあたる当院専攻医の先生から熱烈に進められて、当院精神神経科で精神科専攻医として2023年度から勤務しています。さて、以降は当院の特色を紹介させていただきます。

当科は総合病院の精神科であるため、急性期の患者をメインに診察していますが、急性期精神科診療を行っている病院の中でも特に入院患者の入れ替わりが多い病院とされています。薬物治療をメインに治療を行い、大暴れで入院してきた患者様を1か月程度で退院させることもあります。その分、豊富な症例を経験でき、統合失調症や気分障害を中心に診察し、機会があれば児童精神科症例も早いうちから経験することができます。体感としては、神経症圏やパーソナリティ障害の患者様が少ない印象です。また、他院と比べて早いうちから外来で経験を積むことができます。救急外来担当、予診（上級医担当の初診）は5月から割り振られ、実戦形式で学ぶこととなります。また、前担当医の都合上、私は専攻医として働き始めて1年立たないうちに再診外来を引き継ぐことになり、早いペースで経験を積んでいます。ただ残念ながら、認知行動療法をはじめとした精神療法を行う機会が少ないのが実情です。

「いやいや、私はそんな大変そうな環境で働く自信ないよ」そうお考えのあなた、ご安心ください。万全のサポートをご用意しております。上級医の先生方はいつでも親身に相談に乗ってくださり、非常に働きやすい環境となっています。専攻医同士も助け合い、充実したメンタルライフを送っています。いつでも大歓迎でお待ちしています。

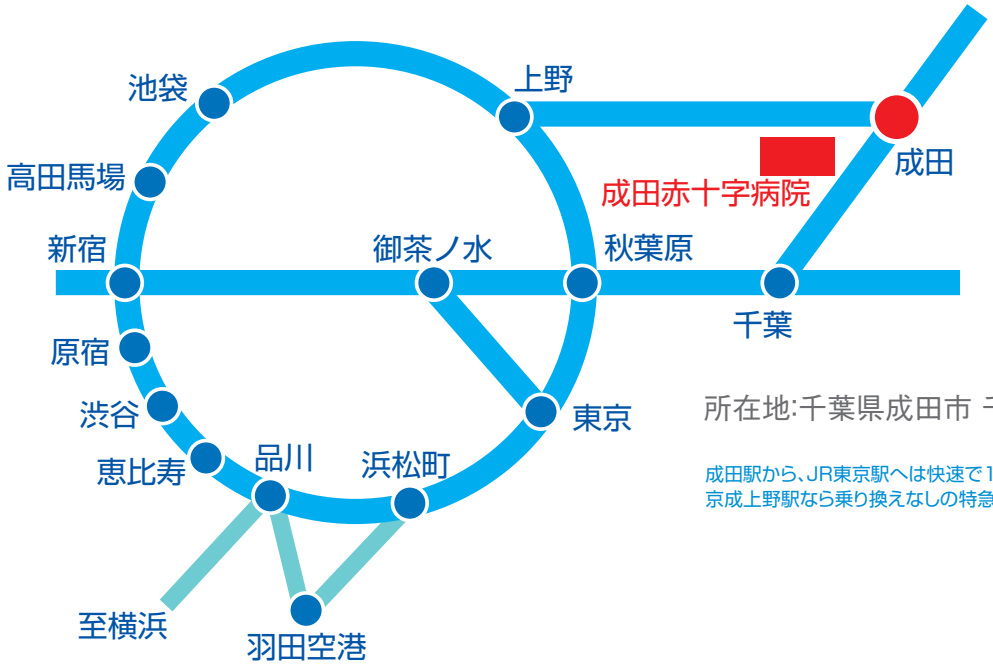
Access





交通アクセス

- ○ JR成田駅中央口よりバスで5分、「日赤病院前」下車
- ○ 京成成田駅中央口よりバスで5分、「日赤病院前」下車
- ○ 京成公津の杜駅より徒歩15分
- ○ 東関東自動車道 富里ICより10分



所在地:千葉県成田市 千葉県北総地域の中核病院

成田駅から、JR東京駅へは快速で1時間25分。
京成上野駅なら乗り換えなしの特急を使って1時間5分。

日本赤十字社

成田赤十字病院

〒286-8523 千葉県成田市飯田町90番地1
TEL 0476-22-2311 FAX 0476-22-6477
http://www.narita.jrc.or.jp

成田赤十字病院 検索

〔発行〕2026年6月(第14版)

Japanese Red Cross

Narita Hospital